

平成25年度
事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	17
倉敷芸術科学大学	28
千葉科学大学	36
岡山理科大学附属高等学校	43
岡山理科大学附属中学校	47
岡山理科大学専門学校	51
玉野総合医療専門学校	56

理事長挨拶

学校法人 加計学園
理事長・総長 加計 晃太郎



平成23年の学園創立50周年を契機に創立者の掲げた建学の理念はもとより、新しい世代へ伝えて行きたい私学教育への思いを「加計学園フィロソフィ」として編纂しました。本学園の教職員一人ひとりが折りに触れてこの「加計学園フィロソフィ」に目を通し、創立者の教育にかけた情熱と意気込みを汲み取って自らのものとして涵養して欲しいと願っております。

さて、日本政府は、21世紀のわが国にふさわしい教育の再生をめざし、安倍内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進するため、教育再生実行会議や産業競争力会議において大学教育改革関連について審議しています。文部科学省は、平成25年3月15日開催の産業競争力会議で人材力強化のための教育戦略として ①成長戦略における大学の役割 ②大学を核とした産業競争力強化プラン ③初等中等教育段階からの世界トップレベルの学力・人間力強化／“グローバルJr.”の育成 ④産業構造変化に対応した学び直し・生涯学習機会の提供について発表しています。このほか「大学改革実行プラン」等に沿った諸施策を推進しています。

これらの教育政策の動向は、「学園NEXT100」に向けた取組みに追い風となるものが少なくありません。理工系教育等による質の高い人材育成、SSH、イメージ教育、海外交流等、学園がこれまで培ってきた教育研究資源を学校間の連携により質的に向上させて参りました。

教育面では、絶えず、時代と社会の変化に対応し、それぞれの設置校において新しい学部、学科、コースの開設や、従来の学部等の枠にとらわれない幅広い教育を行って参りました。さらに、教職員のより一層の連携強化を確立し、質の高い教育の場を提供することにより、多様な観点から思考し自ら学びあらゆる困難に果敢に立ち向かっていこうとする志の高い人材養成を目指しました。

新学部設置については、千葉科学大学看護学部設置認可申請を行いました。

また、海外の大学等の教育機関との交流協定をはじめとしたグローバル化に向けた取り組みは、本学園の一つの大きな特色であります。平成25年度は、こうした本学園にしかできない独自の教育研究事業の一層の充実を目指し、更なる改革を進めて参りました。なかでも、本学園主催による日本語弁論国際大会は、教育研究の場を通して国際交流に努めたいと願っていた創立者の思いを具現化することが出来るものであり、今後、より一層の充実を図っていきます。

平成25年度 事業報告

法人全般

学園全体の取組

教職員の人材育成

■加計学園フィロソフィの浸透

創立者の残された言葉を「加計学園フィロソフィ」として編集し、本学園の精神的バグボーンとしての浸透に努めました。

■FD・SDの推進

「変わる」から「変える」を継続統一テーマとして、FD・SD研修会等を学園全体で開催することで教職員同士の連携を深め、一人ひとりが今の時代に必要な取組は何か気付くきっかけ作りを行いました。

今年度の実施内容

- ・第1回（5月8日）
 - 『認証評価する側から見た大学—大学基準協会における研修を踏まえて』
講師：岡田章弘（大学基準協会派遣修了者）
 - 『エンロールマネジメントの是非』
講師：山口隆久（岡山理科大学教授）
 - 『全国的な傾向と3設置校の状況を概観して』
講師：宮原和志（株式会社KEIアドバンス）
 - 『岡山理科大学2013年度入試総括』
講師：福田尚也（岡山理科大学入試広報部次長）
 - 『入試広報戦略・昨年度の総括と今年度に向けて』
講師：森裕一（岡山理科大学入試広報部長）
 - 『これまでの総括と今後の展望』
講師：波田善夫（岡山理科大学学長）

- ・第2回（7月6・13・20日、8月31日、9月21日）
 - 『経理感覚・経営感覚の大切さ—加計学園フィロソフィより』
講師：渡邊良人（法人本部事務局長）
 - 『学校法人会計と財務諸表および経営・財析』
講師：井内龍男（法人本部事務局次長）
辻本泰己（監査室参事）
- ・第3回（8月7日、27日）
 - 『“プロフェッショナルとは”を考え続け』
講師：飴善晶子（日本航空株式会社 客室本部 客室品質企画部客室教育・訓練室アドバイザーグループ マネージャー）
 - 『企業人の仕事観—建設業の立場から』
講師：蜂谷泰祐氏（岡山西ロータリークラブ 幹事、蜂谷工業株式会社代表取締役社長）
- ・第4回（8月24日）

私学の事務職員が思索し議論する『思いの場』として、先達に接しその精神と経験を知る『学ぶ場』として開塾された『思学塾』が、本学園で開催されることに併せ、これに参加させていただき講話を拝聴し、学園を牽引する役目を担う幹部事務職員および若手職員ひとり一人の担う役目や意識を新たにするため思学塾塾長 川本八郎氏（立命館前理事長）並びに大阪経済大学理事長 勝田久氏に講演を頂きました。
- ・第5回（10月5日）
 - 『教育の大切さについて』
講師：位田隆久（岡山理科大学附属中学校 校長）

・第6回（11月29日）

○『私の立場から見た大学と大学教授—大学が社会的使命を果たすために』

講師：川本八郎（思学塾塾長、立命館前理事長）

・第7回（1月24日）

○ハラスメントのない学園をめざして

講師：木澤克之（木澤法律事務所弁護士）

・第8回（1月11日、25日、2月8日）

○IRの概要と統計処理

講師：柳喜久男（岡山理科大学准教授）

森裕一（岡山理科大学教授）

黒田正博（岡山理科大学准教授）

■進化する自己点検・勤務考課

職員一人ひとりが、業務改善や連携の強化など活力ある組織を目指すべく、各部署・個人ごとに目標を持って取り組みました。

11月8日に配布し、12月20日迄に面談を行いました。

また、教育職員については、各設置校で検討、実施しました。

■私立大学等経常費補助金研修会

今年度は法人本部にて、法人総務課主催の研修会を開催し昨年度から変更された箇所、提出書類の注意事項等説明を行いました。

また、9月12日には、倉敷芸術科学大学において私立大学等経常費補助金の根拠資料の確認を行いました。

ビジョン

■三大学学長会議

岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学の学長及び事務局長等による会議を定期的に行い、大学間の連携や運営方針などを話し合い、将来計画の策定やその実現に努めました。

■財務改善会議

各学校の代表者による財務改善会議を8月に開催した。教学と入試広報の両面から各設置校の課題を検討し、財務体制の健全化を図りました。

労務管理

■ワーク・ライフ・バランス

労務時間の管理を徹底し、さらに各部署における業務見直しにより時間内に効率よく仕事を終わらせることで時間外労働の削減を実現しワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図り、健康で豊かな生活のための時間が確保できる組織作りを目指しました。

■改正労働契約法への対応

労働契約法の改正により、学園におけるアルバイト雇用の労働条件通知書及び労働契約書の見直しを行いました。また、有期労働については、引き続き検討します。

■任期制、早期退職制導入

教員を対象とした任期制、教職員を対象とした早期退職制の導入について引き続き検討していきます。

■安全衛生委員会

学園で働く全ての教職員のこころと身体の健康を保ち安全に働くことができる環境を形成するため、これまで学園全体として組織していた衛生委員会を各事業所に設置しました。

■防災訓練

自然災害についての認識を深め、災害に対する備えを充実させるため、防災訓練を実施しました。

防災意識の向上と、危険物等の安全確保に努めるため、岡山理科大学では、6月6日（木）に消火器・屋内消火栓取扱い訓練、倉敷芸術科学大学で

は8月30日(金)、玉野総合医療専門学校は4月11日(木)に地震・火災避難訓練を行いました。



■救命講習

教職員・学生・生徒を対象としたAED講習会を開催しました。理大キャンパス及び千葉科学大学において教職員対象の講習を計5回行い、緊急時に即座に対応出来るよう周知しました。

また、野外調査に行く学生等を対象にした講習も行いました。

■防災対策委員会

学園内の火災や自然災害をはじめ、交通・防犯、危険物災害等に関する重要な事項を審議すると共に、これらの災害の未然防止や減災に取り組み、学生・生徒や教職員の安全確保に努めました。

■交通安全講習会

安全運転に対する基本的な事項を再認識し、運転者一人ひとりが安全について考え、事故防止へ繋げるよう、交通安全講習会を開催しました。

6月12日、25日(理大キャンパス)、6月26日、28日(倉敷芸術科学大学)にて実施しました。

■包括連携協定

11月29日(金)に警察署が被災した場合に警察機能の確保、迅速的確な対応を行うための臨時拠点として、50周年記念館を提供する「災害時における岡山西警察署代替災害警備本部として使用に関する協定書」を岡山西警察署と締結しました。

12月2日(月)に県立総社高校と科学教育の推進やグローバルな人材育成など多分野で協力を進めるための包括連携協定を締結しました。

2月13日(木)に備前市とまちづくりや防災等の人材交流や意見交換を行い、地域振興を図るための包括連携協定を締結しました。

2月25日(火)に岡山市中央卸市場と好適環境水による魚類養殖の推進、施設の総合利用、地域振興に関する催し等での協力を推進するため包括連携協定を締結しました。

ECO事業

■省エネルギーの推進

平成21年度より省エネルギー推進委員会を定期的に開催し、省エネルギーに対する教職員の意識向上に努めています。引き続き今年度も原単位(エネルギー使用量を延床面積で除した数値)の1%削減目標を掲げ、クールビズ、ウォームビズプラスワン等を実施し、また、旧式タイプのエアコンをエコタイプのエアコンに更新、廊下・階段等の証明をLEDに交換、トイレ等に人感センサー照明の設置等省エネ対策を実施し、節電に努めました。

■環境美化の推進

平成25年度より、岡山理科大学・岡山理科大学附属高等学校・岡山理科大学附属中学校・岡山理科大学専門学校がある理大町キャンパスをはじめ各設置校の環境美化(緑化計画)を推進します。

第一段階として、理大キャンパス、御津、ヘルスピア倉敷に様々な品種の桜を植樹しました。

学園オリジナル

■学園クッキーの作成

加計学園をPRする学園クッキーを作成しました。株式会社SID創研にて販売し、企業訪問、高校訪問、イベント等において利用していきます。

NEXT100周年

■御影インターナショナルこども園

神戸市東灘区御影に0歳から未就学の子供を対象とした「御影インターナショナルこども園」を平成26年4月1日に開園しました。

■寄付金事業

平成26年度に岡山理科大学は創立50周年、千葉科学大学は創立10周年を迎えます。また、平成27年度には倉敷芸術科学大学が創立20周年を迎えます。その記念事業を行うにあたり広く寄付金の募集を行っています。

■加計勉基金の創設

創立50周年記念加計勉基金の創設について検討を継続しています。

国際交流関係

■教育交流協定校との交流プログラム

本学園は現在、国際19カ国70校の海外高等教育機関と教育交流協定を締結し、学生、教職員の交換、留学生やインターンシップ生受け入れなど多彩な国際交流プログラムを行っています。

なお、既に四半世紀継続しているアメリカ、ブラジル学生研修団に対して岡山での最終日に行われるフェアウェルパーティーは、岡山理科大学スカイテラスにて開催。研修団や地域住民の方々、ホストファミリー、学園関係者など500名以上が参加し、中国、韓国、スリランカ、ネパール、ベトナムなどの国際屋台も出店しました。

■第三回加計学園杯日本語弁論国際大会

第三回加計学園杯日本語弁論国際大会の地区

予選を7～10月に8カ国計12会場にて開催しました。これら予選で選抜された12名の出場者による決勝大会を11月15日(金)に岡山理科大学にて開催し、出場者は「私の夢」について、熱弁しました。

■第四回加計杯日本語弁論大会

学園設置校に在籍している留学生による弁論大会の決勝を11月2日(土)に開催し、中国、韓国、スリランカ、マレーシアなどの国々の留学生が出場し、スピーチを行いました。

■海外支局長会議

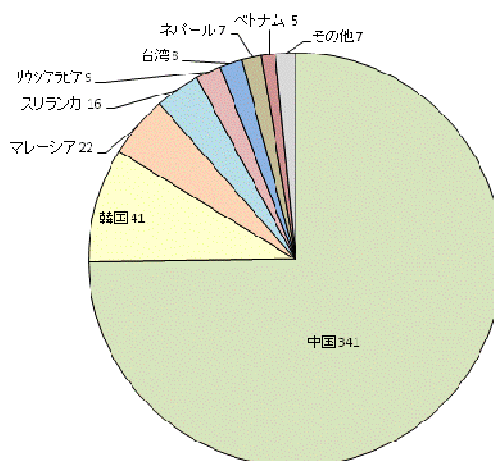
春期は4月7日、秋期は11月14日の2回開催しました。春期は入学式に参加し、秋期は勉強会・報告会を開催、留学生弁論大会に参加するなど、海外支局長同士の連携を深めました。本年より、新たに3名の海外支局長(ベトナム・ホーチミン兼オーストラリア、オーストラリア支局補佐、中国・南京)が着任しました。

■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計画	実行
アメリカ	受入:ライト大学仕事体験生 4名(岡山理科大学) 受入:フィンドリー大学仕事 体験生2名(千葉科学 大学)	4~3月
韓国	受入:湖西大学単位互換履修 生4名(岡山理科大学 2名、倉敷芸術科学大 学2名)	4~3月
台湾	受入:致理技術学院科目等履 修生8名(岡山理科大 4名・倉敷芸術科学大 学4名)	4~2月
アメリカ	受入:フィンドリー大学学生 訪日研修団7名 受入:ライト大学学生訪日研 修団11名	6.24~ 7.17
ブラジル	受入:パラ連邦大学3名・ パラカトリカ大学10名 訪日研修団	6.24~ 7.17
韓国	受入:慶一学園生徒研修団 計29名	7.15~ 7.20
韓国	受入:木洞高校学生研修団 計35名	7.24~ 7.29
中国	受入:北京城市学院学生研修 団 計15名	7.27~ 8.5
韓国	受入:江南スカイ学院学生研 修団 計12名	7.29~ 8.5
ブラジル	派遣:パラ連邦大学・パラカ トリカ大学へ学生研修団 三大学 計9名	8.13~ 9.7
アメリカ	派遣:フィンドリー大学へ学 生研修団三大学計7名	8.13~ 9.7
アメリカ	派遣:ライト大学へ学生研修 団三大学 計10名	8.13~ 9.7
イギリス	派遣:サンダーランド大学へ 学生研修団(派遣なし)	8.13~ 9.3
台湾	派遣:致理技術学院へ学生研 修団(派遣なし)	8.26~ 9.4
中国	受入:東北師範大学人文学院 短期(単位互換)留学生 1名	4月~ 8月
モンゴ ル国	受入:モンゴル国アカデミー 古生物研究センター 計2名来学、調印式	10.21 ~ 10.23
フィリ ピン	受入:フィリピン日本語文化 学院校長計1名来学、 調印式	11.15 ~16
韓国	受入:全南女子商業高校学生 研修団計19名	1.21~ 22
韓国	受入:正明高校学生研修団 計33名	2.19~ 24

■国別留学生内訳

(平成25年5月1日現在)



総数: 456 (単位: 人)

■海外協定校

(平成26年3月31日現在)

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院	13校
	(留学生募集に関する提携校) 内モンゴル省智力引進外語専修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語専修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語専修学院、吉林動画学院 他	(23校)
韓国	慶一学園、金剛学園(永同大学、亨硯高校)、鶴山学園(東ソウル大学)、金龍学園(徳園女子高校、徳園芸術高校)、桂林学園(正明高校)、清錫学園(清州大学)、純心教育財団(純心高校)、湖西学園(湖西大学)、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校、礼ーデザイン高等学校	15校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学	5校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バリーカウィッダチャーラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	ブリュッセル自由大学、アントワープ王立美術アカデミー	2校
タイ	泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール	2校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニョス校、フィリピン日本語文化学院	2校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校
コンゴ民主共和国	高等技術大学	1校
マレーシア	マラ工科大学医学部	1校
モンゴール	モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター	1校

人事

4月1日、加計学園東京事務所は、田町から竹橋にあるパレスサイドビルに移転しました。

組織

■加計学園理事・監事評議員概況

区分	定数	常勤	非常勤	計
理事	9～13	7	2	9
監事	2		2	2
評議員	23～32	28	4	32

(平成25年5月1日現在)

■役員について

5月31日 江草玄士監事退任

6月1日 木澤克之監事就任

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

- 昭和30年4月 加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
- 昭和36年9月 学校法人加計学園認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
- 昭和37年4月 岡山電機工業高等学校開校（全日制） 初代校長に、神崎栄一郎就任
- 昭和39年1月 岡山理科大学設置認可
- 2月 岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校と改称
- 4月 岡山理科大学開学（理学部） 初代学長に、加計勉就任
- 昭和42年4月 岡山理科大学附属高等学校第2代校長として、内藤一人就任
- 昭和44年12月 真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
- 昭和48年10月 学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示変更により、岡山市理大町と町名変更
- 昭和49年4月 岡山理科大学大学院理学研究科修士課程を設置
岡山理科大学附属高等学校第3代校長として、中尾寿夫就任
- 昭和50年4月 岡山高等建築専門学院設置認可
- 5月 岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制）初代校長に、中尾寿夫就任
- 昭和51年4月 岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校と改称
- 昭和53年4月 岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）を設置
- 昭和55年4月 岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
岡山理科大学附属高等学校第4代校長として、松本卓三就任
岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長として、片山誠二就任
- 7月 寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に、加計勉就任
- 昭和59年4月 岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任

- 昭和 61 年 4 月 岡山理科大学工学部設置
岡山理科大学附属高等学校第 5 代校長として、三宅寛就任
岡山高等建築専門学校を**岡山理科大学専門学校**と改称
- 平成 2 年 4 月 岡山理科大学第 4 代学長に、加計勉就任
岡山理科大学大学院の理学研究科を改組し、工学研究科を設置
- 平成 4 年 1 月 岡山理科大学附属高等学校第 6 代校長として、加計晃太郎就任
4 月 岡山理科大学附属高等学校第 7 代校長として、渡辺己巳生就任
- 平成 6 年 12 月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に、谷口澄夫就任
- 平成 7 年 4 月 **倉敷芸術科学大学**開学
- 平成 9 年 4 月 岡山理科大学総合情報学部を増設
12 月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可
- 平成 10 年 4 月 **玉野看護福祉総合専門学校**を開校 初代校長に、金政泰弘就任
岡山理科大学附属高等学校第 8 代校長に、三木輝知就任
岡山理科大学専門学校第 3 代校長に、村上侑就任
- 平成 11 年 4 月 倉敷芸術科学大学第 2 代学長に、土井章就任
倉敷芸術科学大学大学院開設
- 平成 12 年 4 月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更
岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置
- 平成 13 年 1 月 学校法人加計学園第 2 代理事長・総長に、加計晃太郎就任
4 月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科設置
倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に博士（後期）課程設置
玉野看護福祉総合専門学校を、**玉野総合医療専門学校**に名称変更
岡山理科大学第 5 代学長として、山村泰道就任
9 月 岡山理科大学附属中学校設置認可
- 平成 14 年 4 月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置
岡山理科大学附属高等学校第 9 代校長として、北尾正幸就任
岡山理科大学専門学校第 4 代校長として、逢坂一正就任
岡山理科大学附属中学校開校 初代校長として、善木道雄就任
- 平成 15 年 4 月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部（通信教育課程）、国際教養学部（通信教育課程）を設置
11 月 千葉科学大学設置認可
- 平成 16 年 3 月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可
4 月 岡山理科大学第 6 代学長に、宮垣嘉也就任
倉敷芸術科学大学生命科学部を設置
倉敷芸術科学大学国際教養学部募集停止
倉敷芸術科学大学国際教養学部（通信教育課程）募集停止
千葉科学大学開学 初代学長に、平野敏右就任
倉敷芸術科学大学専門学校開校 初代校長に、岡本繁通就任
- 平成 17 年 4 月 倉敷芸術科学大学第 3 代学長に、添田喬就任
岡山理科大学附属高等学校第 10 代校長に、橋爪道彦就任
岡山理科大学附属中学校第 2 代校長に、新倉正和就任
岡山理科大学専門学校第 5 代校長に、圓堂稔就任
玉野総合医療専門学校第 2 代校長に、岡田茂就任

- 平成 19 年 4 月 倉敷芸術科学大学専門学校第 2 代校長に、伊藤敏夫就任
- 平成 20 年 4 月 岡山理科大学第 7 代学長に、波田善夫就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科を設置
倉敷芸術科学大学専門学校を**倉敷 食と器 専門学校**に名称変更
- 平成 21 年 4 月 岡山理科大学専門学校第 6 代校長に、小林正文就任
- 平成 22 年 3 月 倉敷芸術科学大学国際教養学部を廃止
- 平成 22 年 4 月 千葉科学大学第 2 代学長に、赤木靖春就任
玉野総合医療専門学校第 3 代校長に、高井研一就任
倉敷 食と器 専門学校第 3 代校長に、川上雅之就任
千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置
- 平成 23 年 4 月 倉敷 食と器 専門学校第 4 代校長に、亀井秀人就任
10 月 倉敷芸術科学大学第 4 代学長に、唐木英明就任
- 平成 24 年 4 月 岡山理科大学附属高等学校第 1 1 代校長に、宮垣嘉也就任
岡山理科大学附属中学校第 3 代校長に、位田隆久就任
岡山理科大学専門学校第 7 代校長に、村岡正就任
岡山理科大学生物地球学部設置
倉敷芸術科学大学別科に調理師別科、製菓衛生師別科設置
千葉科学大学大学院薬科学研究科を薬学研究科に名称変更、薬学科（6 年制）を基礎とした薬学専攻博士課程（4 年制一貫）を設置
- 平成 24 年 7 月 千葉科学大学大学院薬学研究科について、薬学科（4 年制）を基礎とした薬学専攻修士課程を廃止
- 平成 25 年 3 月 倉敷 食と器 専門学校閉校
- 平成 25 年 4 月 岡山理科大学総合情報学部コンピュータシミュレーション学科及び大学院総合情報研究科シミュレーション科学専攻を廃止
千葉科学大学危機管理学部環境安全システム学科を廃止
10 月 倉敷芸術科学大学芸術学部美術学科を廃止
12 月 千葉科学大学看護学部設置認可
- 平成 26 年 3 月 収益事業開始認可
千葉科学大学危機管理学部防災システム学科を廃止
岡山理科大学専門学校文化・教養一般課程を廃止

■設置校概況

平成25年5月1日現在

区 分	合計		教員	職員	計
	定員	現員			
岡山理科大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,459	6,051	270	197	467
大学院	384	203	(本部) 84 (理大) 113		
理学研究科	191	108			
工学研究科	147	68			
総合情報研究科	46	27			
学部	5,075	5,848			
理 学 部	2,075	2,475			
工 学 部	1,940	2,171			
総合情報学部	860	961			
生物地球学部	200	241			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,017	1,643	113	64	177
大学院	126	54			
芸術研究科	52	25			
産業科学技術研究科	44	20			
人間文化研究科	30	9			
学部	1,771	1,579			
芸術学部	412	382			
産業科学技術学部	404	245			
生命科学部	955	952			
大学院 (通信制)	120	8			
芸術研究科	20	2			
産業科学技術研究科	40	0			
人間文化研究科	60	6			
学部 (通信教育課程)		2			
産業科学技術学部	(募集停止)	2			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,280	1,738	104	56	160
大学院	60	26			
薬科学研究科	41	14			
危機管理学研究科	19	12			
学部	2,220	1,712			
薬学部	1,020	717			
危機管理学部	1,200	995			
岡山理科大学附属高等学校 (岡山市北区理大町1-1)	2,100	1,489	76	21	97
全日制	1,500	1,231			
通信制(1~3年定員:600名)	600	258			
岡山理科大学附属中学校 (岡山市北区理大町1-1)	240	175	19		19
岡山理科大学専門学校 (岡山市北区半田町8-3)	490	409	13	12	25
工業専門課程(建築)	120	88			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程(動物看護, トリミング, ドッグ, フット)	370	321			
文化・教養一般課程(トリミング, ドッグ, フット)	0	0			
玉野総合医療専門学校 (玉野市築港1丁目1-20)	560	476	29	8	37
医療専門課程(保健看護, 理学療法, 作業療法)	480	435			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	41			
合 計	13,146	11,981	624	358	982

※別科、専攻科等除く

財務関係

■資金収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,630,968,156
手数料収入	285,873,690
寄付金収入	76,086,308
補助金収入	2,245,429,813
資産運用収入	158,383,685
資産売却収入	3,161,300
事業収入	125,445,140
雑収入	841,686,103
借入金等収入	400,610,000
前受金収入	2,412,062,800
その他の収入	1,468,410,450
資金収入調整勘定	△ 3,354,988,878
前年度繰越支払資金	21,422,175,098
計	41,715,303,665

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,579,999,621
教育研究経費支出	3,899,974,759
管理経費支出	1,355,750,722
借入金等利息支出	114,630,577
借入金等返済支出	1,039,697,300
施設関係支出	2,190,284,947
設備関係支出	674,170,106
資産運用支出	338,038,000
その他の支出	1,655,417,470
資金支出調整勘定	△ 1,159,346,845
次年度繰越支払資金	20,026,687,008
計	41,715,303,665

■消費収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

消費収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	15,630,968,156
手数料	285,873,690
寄付金	104,838,137
補助金	2,245,429,813
資産運用収入	158,383,685
資産売却差額	999,999
事業収入	118,955,788
雑収入	841,686,103
帰属収入合計	19,387,135,371
基本金組入額合計	△ 861,222,473
消費収入の部合計	18,525,912,898

消費支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費	11,579,999,621
教育研究経費	5,676,237,897
管理経費	1,850,062,384
借入金等利息	114,630,577
資産処分差額	265,423,834
徴収不能引当金繰入額等	13,596,513
消費支出の部合計	19,499,950,826
当年度消費支出超過額	974,037,928
前年度繰越消費支出超過額	13,904,340,953
翌年度繰越消費支出超過額	14,878,378,881

■貸借対照表（平成26年3月31日）

資産の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定資産	59,387,876,919
有形固定資産	54,159,324,297
その他の固定資産	5,228,552,622
流動資産	22,071,550,273
資産の部合計	81,459,427,192

負債の部 (単位：円)

科 目	金 額
固定負債	11,533,298,209
流動負債	4,658,975,838
負債の部合計	16,192,274,047

基本金の部 (単位：円)

科 目	金 額
基本金の部合計	80,105,532,026

消費収支差額の部 (単位：円)

科 目	金 額
翌年度繰越消費支出超過額	△ 14,878,378,881
消費収支差額の部合計	△ 14,878,378,881
科 目	金 額
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	81,419,427,192

■財産目録（平成26年3月31日）

(単位：円)

科 目	金 額
一資産額	
(一) 基本財産	58,845,562,349
1. 土地	15,846,276,024
借地権	459,340,000
2. 建物	26,425,857,318
(1)校舎	20,684,765,212
(2)図書館	354,259,039
(3)体育館	2,324,677,991
(4)寄宿舎	383,404,172
(5)倉庫	20,738,172
(6)その他	2,658,012,732
3. 建設仮勘定	431,473,906
4. 構築物	1,310,886,943
5. 図書	6,723,869,703
6. 教具・校具・備品	3,384,119,841
7. 車両運搬具	36,840,562
8. 積立金	2,026,898,052
9. 特定資産	2,200,000,000
(二) 運用財産	22,613,864,843
1. 預金、現金	20,286,687,008
2. 出資金	94,859,400
3. 有価証券	960,629,833
4. 未収金	1,006,516,148
5. 仮払金	7,240,467
6. 差入保証金	187,455,170
7. 前払金	68,696,361
8. 貯蔵品	1,780,456
合 計	81,459,427,192
二負債額	
1. 固定負債	11,533,298,209
(1)長期借入金	7,678,427,000
(2)学校債	3,290,000
(3)退職給与引当金	3,851,581,209
2. 流動負債	4,658,975,838
(1)短期借入金	525,960,000
(2)学校債	3,580,000
(3)未払金	1,082,485,362
(4)前受金	2,412,062,800
(5)預り金	618,709,788
(6)仮受金	16,177,888
合 計	16,192,274,047

■財務比率

消費収支計算書及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学の経年比率を示しました。

区 分		22年度	23年度	24年度	25年度	
分類	比 率	算式 (×100)				
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	△11.2%	△15.9%	△17.0%	△18.3%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要組入額}}$	87.5%	88.5%	89.8%	89.8%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	90.7%	92.6%	89.7%	91.0%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	77.3%	76.9%	75.6%	77.4%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	564.5%	491.0%	542.8%	473.7%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	863.1%	907.1%	917.2%	830.3%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	18.8%	21.6%	20.1%	19.9%
	負債率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	15.9%	18.8%	17.3%	24.8%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金}}{\text{基本金要組入額}}$	76.9%	73.6%	74.0%	73.1%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	60.5%	71.4%	58.2%	59.7%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	31.5%	30.4%	28.8%	29.3%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	9.3%	10.0%	8.6%	9.5%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	102.6%	113.3%	96.6%	100.6%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	127.3%	145.5%	120.6%	124.8%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	80.7%	77.9%	80.1%	80.6%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	0.7%	1.8%	0.4%	0.5%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	14.0%	14.5%	13.5%	11.6%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$	4.2%	6.2%	7.4%	4.4%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	856,048	13,440	12,000	39,633	1,455	922,576
倉敷芸術科学大学	416,667	51,765	11,890	8,139	4,054	492,515
千葉科学大学	315,983	17,700	13,662	708	141	348,194
岡山理科大学附属高等学校				18,881	364,563	383,444
岡山理科大学附属中学校					61,601	61,601
岡山理科大学専門学校					181	181
玉野総合医療専門学校					27,602	27,602
倉敷食と器専門学校					0	0
合計	1,588,698	82,905	37,552	67,361	459,597	2,236,113

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	32 件	25 件	52 件	92,097 千円
理学部	14	5	21	32,097
工学部	12	16	19	38,090
総合情報学部		2	4	7,930
生物地球学部	6	1	5	11,050
附属施設		1	1	1,820
その他			2	1,110
倉敷芸術科学大学	6	5	6	48,763
芸術学部		2	2	6,197
産業科学技術学部	3	3	1	15,300
生命科学部	3		3	27,266
千葉科学大学	11	5	13	54,518
薬学部	9	2	9	19,110
危機管理学部	2	3	4	35,408
合計	49	35	71	195,378

平成 25 年度 事業報告

岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は1964年に理学部の単科大学で設立され、来年度に創立50周年を迎えます。大学の歴史の中で、成長期に構成員となった教職員が定年を迎える時期でもあります。これらを契機として、次の5カ年の中期計画を掲げます。

1. 方針：地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を迎えるために、傑出した特色を持つ必要がある。その方向は、「特色ある研究」と「充実した教育」であり、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成します。
2. コンセプトの確立：教員の入れ替わりは、学科の方向性を変えることができる重大な契機です。学生や社会のニーズ、学会の動向などを勘案しつつ、学部・学科のコンセプト確立を行い、必要であれば再編します。
3. 研究環境の整備：基盤整備事業への選定など、研究環境の整備は充実しつつありますが、今後とも重点課題として位置づけます。これとともに教員および大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を構築します。
4. 教育システムの充実：本学の高等教育施設としてのスタンスは、高いレベルでの「研究に立脚した教育」であり、建学の理念にも示されているように、入学直後からの科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての教育が行われなくてはなりません。この体制のさらなる改善を行います。
5. 自己点検システムの確立：本年度は認証評価が実施されます。今後、自己点検のシステムを常時的なものとし、PDCAサイクルを実質的なものとしします。
6. 社会貢献：岡山理科大学は社会における役割を自覚し、地域貢献事業を積極的にを行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献します。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教学の充実

■学生支援の充実に向けて

平成24年度に学生支援の基本方針を定めましたが、平成25年度は、この基本方針に基づいて「修学支援」、「生活支援」、「進路支援」に関する方針を検討しました。今後は各方針を決定しさらに学生支援の方策を検討・実施し、学生支援の充実を目指します。

■自己点検評価

平成25年度に大学基準協会の大学評価を受審しました。10月28日、29日の実地調査を経て、12月に大学基準協会の大学評価委員会より評価結果として正式に適合の通知がありました。

■学生の多様なニーズへの対応

新入生の学力や履修科目の多様化に対する教学面の課題に取り組みました。入学式直後に実施する学力多様化度調査の方法を改善し、入門科目が効果的に機能するよう指導の充実を図りました。また、平成25年度は、聴覚や視覚に障がいのある学生を受け入れました。障がいのある学生達が充実した学生



生活を送れるよう、環境整備、修学支援、生活支援に取り組みました。

■新入生オリエンテーションの充実

工学部の2学科において一泊研修に替わる新たな取り組みとして、2日間のグループワーク「自己の探求」を学内にて実施しました。このグループワークにより、自己を知り他者との違いを理解することで、学生の修学意欲を高め、チームビルディング力の向上を目指しました。

■共通教育科目の充実

平成25年度入学生を対象に、キャリア支援科目「学びの基礎論」、「地域フィールドスタディ」を新たに開講しました。大学で学ぶ意味や地域社会において学問が果たす役割について学び、「人間力」の向上を目指しました。また、英語教育においては、英語論文の概説・書き方や学会におけるプレゼンテーション指導といった専門教育に接続する教育や、基礎力養成を目的とする英語クラスの設定を行いました。



■外国人留学生の受け入れ

平成25年度はアラビア語圏から初の留学生となるサウジアラビアの留学生受け入れました。また、秋入学のための学部留学生入試を実施し、学部にて4名の秋入学生を受け入れました。これらの留学生に対して修学面、生活面での支援を行いました。また、平成26年度より学期名称を「春学期」、「秋学期」に変更するため、学則等の整備を行いました。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD講演会、授業アンケート、学習と生活に関するアンケート、FD・SDカフェ、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。平成24年度に大幅改訂した授業アン

ケートに関しては、実施結果の意見を反映し集計結果の表を追加しました。

■教員採用試験の支援

平成25年度の教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。昨年度より採用人数が減少し、教員採用試験現役正規格格者は述べ23名、既卒者を含む正規格格者は述べ89名でした。

■学生寮の改革

日本人学生寮と留学生寮の区別を取り払い、日本人学生と留学生が同じ寮で共生し、コミュニケーションを取り合えるようにしました。このことにより、日本人学生にはグローバルな視点を持たせ、留学生には日本の習慣の理解と日本語能力を向上させることができました。また、寮生が寮の運営に主体的に関与する制度を構築し、寮生の自主性や協調性を養うことができました。

文部科学省選定事業

■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度に理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の3年目の取り組みを行いました。また中間報告を提出しました。

地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることです。このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1：新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2：鉱物微少領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度高精度

度化、及びその応用

テーマ3：新たなルミネッセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数：8名

代表者：理学部 応用物理学科 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

2. グリーン元素科学

平成21年度に理学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の最終年度の取り組みを行いました。



文部科学省は国の第3期科学技術基本計画の一環として「元素戦略プロジェクト」を進めており、「環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究」というテーマのもとに共同で研究するための組織が「グリーン元素科学」です。

テーマ1：汎用元素による新機能創出

テーマ2：元素のハイブリット化による新物質創出

テーマ3：生体物質を利用した省元素資源

研究者数：17名

代表者：理学研究科 教授 森重 國光

事業期間：平成21年度～平成25年度（5年間）

3. QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の2年目の取り組みを行いました。

生活支援機器や環境改善によりQOL（Quality of life 生活の質）を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成しました。

テーマ1. 生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2. 環境改善によるQOLの向上

研究者数：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

4. 申請計画

平成25年度は「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に1件申請しました。

【不採択】

■産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

取組名称：産業界との連携による中国・四国地域人材育成事業

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としました。

補助期間3年計画の2年目の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度（3年間）

■平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業

文部科学省は、平成25年より「大学力」の向上を目的とした、大学改革の基盤充実を図るための經常費・設備費・施設費を重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」を実施しました。

その取組の中の設備の補助として「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」を2件申請し、採択されました。

①タイプ名称：タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」

事業担当者：教育開発支援機構

機構長 豊田 真司

事業内容：ラーニングコモンズのためのインタラクティブディスプレイ・什器等の整備

②タイプ名称：タイプ2「特色を発揮し、地域の

発展を重層的に支える大学づくり」

事業担当者：教養教育センター

センター長 西村 次郎

事業内容：地域との連携拠点におけるアクティブラーニングのための電子黒板等の整備

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費補助金、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進しました。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、ガイドラインの周知や獲得者への研修会を実施しました。不正防止計画の整備をし、周知しました。また、公的資金で購入した物品の検収を行いました。

■知的財産化

1. 発明の知的財産化

研究者の職務発明を知的財産化することを目指し、職務発明審査委員会を通じて発明の発掘、特許権利化に努めました。また、知的財産の技術移転を図り、産業活用に繋げるとともに、研究の推進に役立てました。

2. 特許セミナー

知的財産権セミナーを3回開催し、研究者および学生の知的財産の理解のための研修を行いました。

■産業界との交流の活発化

地域産業界との交流行事に参加し、地元企業との連携を深めました。

1. 岡山県主催の「100社訪問」等の行事に参加し、地元企業との交流に努めました。
2. (株)日本政策金融公庫ビジネス交流会に参加しました。

3. おかやま信用金庫主催のビジネス交流会に参加しました。
4. 岡山市(岡山工業会・SEO等)等県内市町村とのビジネス交流会に参加しました。
5. トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流を実施しました。
6. 各種企業・異業種交流会等に参加し、産官学連携活動の広報活動を積極的に行いました。
7. 本学の紹介を兼ねて官庁や産業界からの見学依頼を受け入れました。

■大学間の交流

前年度に引き続き、大学コンソーシアム岡山の会長校を担当しました。会長校として県内16大学のもとにある大学教育部、社会人教育事業部、産官学連携事業部を中心に大学連携を通じて岡山の活性化を目指しました。平成23年度に終了したGP事業『「岡山オルガノン」の構築』に関する事業もこの会にて継承して実施していました。会長校として任期2年が終了しました。

■外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

■委託公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(専門教養コース)を開講しました。(8月~9月)

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2013を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等を行いました。今年で13回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズを公開しました。

- 1) 「OUSフォーラム2013の開催」
(11月22日:岡山)

2) JST 科学技術振興機構「新技術説明会」での
発表 (11月 7日:東京)

3)「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」
(3月 4日:岡山)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」を発行し、広く配布しました。ホームページの運営等を通じ、積極的に研究内容の発信に努めました。



■(株)林原との学術交流

本学は、平成24年度、(株)林原メセナセンターと学術交流協定を、(株)林原と化石標本利用の覚書を締結しました。平成26年4月には生物地球学科に「恐竜・古生物学コース」を開設予定であり、地質学および古生物学の分野を中心に学術交流を進め、(株)林原および林原自然科学博物館が所有する標本を有効利用することにより教育・研究の充実を図りました。

■モンゴル科学アカデミー古生物学研究センターとの研究・教育に関する協力連携協定

平成25年10月に、モンゴル国における古生物学および地質学に関する研究と教育の連携協力を推進するため、モンゴル科学アカデミー古生物学研究センターとの間で「共同古生物学研究・教育の相互協力に関わる協定」を締結しました。

生物地球学科は、平成26年度より日本で初の「恐竜・古生物学コース」を新設し、古生物学の中でも恐竜に焦点を当てた教育、研究を進めました。協定を締結することにより、今後、古生物学および地質学に関する研究と教育の発展が期待されます。これにより、より質の高い教育・研究を学生に提供し、社会に貢献することが期待できます。

本協定の締結にあたり、(株)林原との間で、双方合意するものについての研究事業移管の覚書も締結されました。

学科・コース等新設

■総合情報学部情報科学科コース制導入

総合情報学部情報科学科に3つのコースを設置しました。

デジタルメディアコース

ICTの集大成ともいえるゲーム分野に着目し、応用されている映像や音声処理技術や様々なデバイスを活用する技術を学びました。

Web・モバイルコース

Webの仕組みからWebアプリの開発に関する学習や、急速に伸び行くモバイル情報機器のソフトウェア開発に関する技術を学びました。

情報数学コース

情報の基礎となる数学を学び、統計や数値解析などコンピュータを活用することで、より実用的な応用を学びました。

■総合情報学部社会情報学科「情報処理コース」新設

総合情報学部社会情報学科に、「情報処理コース」を新設しました。同コースでは、ビジネスに必要な情報処理技術や、データ解析やデータベースなどの情報処理方法を学びました。経営に必要なマーケティングデータの解析や、社会調査など、文系分野での情報処理能力が、今後ますます必要になることから、従来の「経営・経済コース」「法政・社会コース」「歴史・文化コース」の3コースに追加し、学科の充実を図りました。

平成26年度に向けて

■学内整備工事

第一学舎、第1号館、第10号館等の老朽化に伴う学内整備工事に取りかかりました。平成25年度

は、第一学舎の一部解体、第三学舎・第六学舎の解体、道路整備等を行い、平成26年の新1号館着工に備えました。

新1号館は延べ床面積約27,000㎡、地上11階、地下1階の規模です。学長室・事務局長室・講義室・マルチメディア教室・実験室・研究室・実習室・学生食堂・学生控室・ラーニングコモンズ・工作センター・大学事務局などを収容し、大学の新たな顔となる建物として平成28年度完成予定です。また、学内の教員養成課程の在り方を見直し、新1号館完成時に新たな課程を収容する方向で検討を進めました。

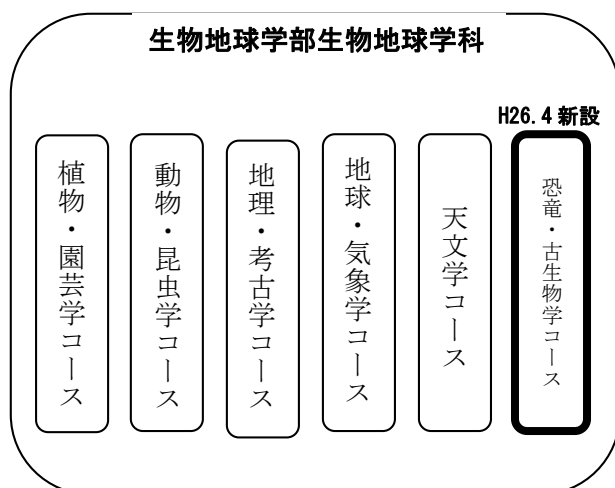
■大学創立50周年記念事業

岡山理科大学は平成26年度に創立50周年を迎えます。平成25年度は各学部代表者及び事務部門代表者で構成する『50周年記念事業準備委員会』が中心となり、学会・講演会等アカデミックなイベントを実施しました。

■生物地球学部生物地球学科定員増及び「恐竜・古生物学コース」の新設

生物地球学部生物地球学科では、平成26年4月より入学定員を20名増やし、「恐竜・古生物学」コース(予定)を新設しました。現在設置している「植物・園芸学」「動物・昆虫学」「地理・考古学」「地球・気象学」「天文学」の5コースから6コースへと学びの範囲を広げました。

【平成25年6月18日、収容定員増認可】



キャリア支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催しました。

1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座も実施しました。2年次生と3年次生対象の2年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コース、地方上級・国家一般職コースと入門講座の3コースです。3年次生対象の1年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コースと地方上級・国家一般職コースの2コースです。



■学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の会社の人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。学内会社説明会を企画、岡山県産業労働部と共催して学内にて会社説明会を7月・10月に実施しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する合同企業説明会を開催しました。この合同企業説明会には本学学生のために全国307社の企業の採用担当者が参加

し、約700名の学生が参加しました。また、企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、v o l . 0 ~ 4 を発刊しました。「ME」を各年次別のガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就活ダイアリーの発行

3年次の6月に就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備などの確認に活用できるよう指導しました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に4月中旬に「就職・進路懇談会」を実施しました。各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者が面談し、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談に応じました。

■学生カルテの充実

学生ひとりひとりとの面談記録、セミナー・ガイダンスの参加状況などの就職活動状況をシステムに登録し、教員とキャリアセンターが共有することにより、学生にとって最善のサポートを目指しました。

■適性検査の実施

大学が費用を負担し、1年次生と3年次生全員を対象に適性検査を実施します。検査後はフォローセミナーを実施し、自己理解を深め、自己をアピールできるよう学生の指導に努めました。

■業者主催合同会社説明会への無料バスの運行

3年生・M1生を対象に、就職活動が解禁となる12月以降、業者主催の合同会社説明会（大阪・広島

行き）の大学発無料バスを運行し、学生の就職活動開始に向けたサポートを行いました。

平成26年度入試

本学の入学者受入方針は、本学が持つ研究領域の学習を強く希望する受験生と、高度な研究を目指す受験生の確保でした。平成26年度入試では、早期入試で本学への入学意識を固めた生徒に対する、入学前のアドバイスや教育の強化を継続しました。また、受験生の立場に立ち、受験関係書類や入学関係書類の改訂を引き続き実施しました。

広報に関すること

募集広報と並行して大学広報を以下のように展開していきました。今年から大学創立50周年記念施策にも取り組みました。

■新中期戦略2年目

SCIENCE DREAM GARDEN をキーワードとし、これをフォローするフレーズとして「わからないことには夢がある」を導入し、大学の思想をしっかりと伝えていきました。



■科学っておもしろい！

理工系大学としての使命と考える「科学のおもしろさ」を伝える広報施策を展開しました。「ミニ図鑑」、「しおり」、「サイエンスレクチャー」、「クリスマスレクチャー」の継続に加え、HP「サイバラ」を活用し広域に情報発信を行いました。

■岡山理科大の研究力！

企業や一般の方々に対して、岡山理科大学の研究力を積極的にアピールしていきました。

人事・組織

■事務組織、附属施設の将来計画の検討

事務組織については、新1号館建設後の事務部門移動に向けて、更なる学生支援、教育・研究支援の充実を図るため、事務組織の改編を検討しました。

このことにより、教職員間、各部署間の連携を密にして、業務の質と処理能力の向上を目指しました。

また、附属施設については、9つある施設がそれぞれ有機的に結びつき、より効果的な教育、研究支援組織となるように、施設の将来計画を検討しました。

主な行事

4月2日	入学前オリエンテーション
4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
4月13日	就職進路懇談会
5月11日 ～12日	皐月祭
6月16日	オープンキャンパス
7月23日 ～8月2日	前期定期試験
8月3日 ～4日	オープンキャンパス
9月7日 ～8日	教育進路懇談会（地方）
14日	教育進路懇談会（本学）
9月12日	後期オリエンテーション
9月23日	オープンキャンパス
10月6日	AO入試 専門学校・総合学科特別推薦入試Ⅰ期
11月3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅱ期
11月16日 ～17日	推薦入試
11月21日 ～23日	半田山祭（大学祭）
11月22日	OUSフォーラム
12月15日	加計学園推薦入試
1月18日 ～19日	大学入試センター試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大学院	理学研究科(博士)	13	1		39	9			
	理学研究科(修士)	76	53		152	99	1		
	工学研究科(博士)	5	3	2	15	8	6	1	
	工学研究科(修士)	66	26		132	60	13	1	
	総合情報研究科(博士)	2	1		6	2		1	
	総合情報研究科(修士)	20	10		40	25	2		
	大学院計	182	94	2	0	384	203	21	4
学部	理学部	応用数学科	95	124		370	460		
		化学科	70	90		285	328		
		応用物理学科	70	82		280	293		
		基礎理学科	75	91		300	368		
		生物化学科	85	99		340	414		
		臨床生命科学科	85	100		340	418		
		動物学科	40	46		160	194		
	理学部計	520	632	0	0	2,075	2,475	0	0
	工学部	バイオ・応用化学科	75	97		300	362	2	
		機械システム工学科	85	111	2	340	416	12	
		電気電子システム学科	70	85	3	280	309	11	
		情報工学科	85	98	3	340	425	6	
		知能機械工学科	55	59	6	225	212	16	
生体医工学科		60	57	2	240	216	22	1	
建築学科		70	89	9	215	231	14	4	
工学部計	500	596	25	0	1,940	2,171	83	1	
総合情報学部	情報科学科	80	99		320	359	5		
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	—			
	生物地球システム学科 (募集停止)	—	—	—	140	181			
	社会情報学科	80	97	3	310	371	18		
	建築学科 (募集停止)	—	—	—	90	50	3		
総合情報学部計	160	196	3	0	860	961	26	0	
地球生物部	生物地球学科	100	120	1	1	200	241	1	1
	地球生物部計	100	120	1	1	200	241	1	1
学部計		1,280	1,544	29	1	5,075	5,848	110	2
総合計		1,462	1,638	31	1	5,459	6,051	131	6
理学部理学専攻科		30	0			30	0		
教職特別課程		50	15			50	15		
留学生別科		60	7	7		60	7	7	

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成25年5月2日～平成26年3月31日)に入学した者です

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	2	2	2	100%	0	0	0	4
	修士	86	70	62	89%	9	6	4	6
学部	1,207		936	815	87%	139	212	103	410
教職特別課程	14				100%	0	1	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株) (株)百十四銀行	(株)クラレ (株)天満屋	西日本旅客鉄道(株) 日亜化学工業(株)	日本生命保険相互会社 中国電力(株)	他
-------	------------------------	------------------	-------------------------	-----------------------	---

■教職員数

(平成25年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	1	2	160	69	29	4	2	1	1	270

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	197	113

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	8,773,196	8,426,430
補助金収入	922,577	1,257,615
その他収入	754,205	635,681
帰属収入合計	10,449,979	10,319,726
基本金組入額合計	△ 270,796	△ 645,233
消費収入の部合計	10,179,183	9,674,494
人件費	5,274,855	5,243,782
教育研究経費	2,721,719	2,650,071
管理経費	532,600	540,731
その他支出	314,752	126,083
消費支出の部合計	8,843,927	8,560,667

事業名	金額
第一学舎4階講義室改装工事(学友会)	2,540
第10号館1階事務室改装工事(学友会)	392
第8号館1階学生控室改装工事(軽食堂)	9,900
スカイラス1階食堂改装工事(グラントキッチン)	3,650
第17号館2階コンピュータ実習室扉取替及び入退出管理システム設置工事	1,528
第15号館2階トイレ改修工事	7,571
新建物関係構内道路工事(仮設)	82,605
東門A敷地駐輪場増設工事	6,200
東門B敷地駐輪場増設工事	3,400
笹ヶ瀬キャンパスサッカーコート北側エリア排水側溝設置工事	3,100
第7号館北側落石防止フェンス設置工事	330
新建物建築費(実施設計・監理料)	40,000
新建物建設予定地地歴調査及び土壌調査	7,224
新建物建設予定地土壌詳細(深度)調査	5,145
第一学舎取り壊し工事(1期)	17,661
第三学舎取り壊し工事	24,129
第六学舎取り壊し工事	39,421
軽食堂等プレハブ取り壊し工事	1,168

■施設設備整備計画(抜粋)

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器や改組新設した学科の設備等を計画に基づき整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
里道・農道(岡山市)購入(新建物建設地)	13,846
新建物関係インフラ整備工事	238,839
第一学舎取り壊し工事後補修工事	3,440
津島東研修館改装工事	3,066
第一学舎4階講義室改装工事(留学生別科)	420

主な装置・設備関係

(鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業による大型機器)

事業名	金額
赤外顕微システム (補助金決定額：13,440)	20,160

(ICT活用推進事業における整備事業)

事業名	金額
岡山理科大学ネットワーク災害対応再整備事業 内訳：敷設工事分 (61,750) 装置購入分 (3,237) [平成24年度補助金決定額：30,854]	64,987

(私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

事業名	金額
ラーニングcommons設備一式 (補助金決定額：8,111)	8,526
シーカヤック一式 (補助金決定額：4,660)	4,660
電子黒板教育システム一式 (補助金決定額：2,205)	2,205
生物顕微鏡・実体顕微鏡一式 (補助金決定額：1,905)	1,905

(その他の大型機器)

事業名	金額
サイバーキャンパス連携情報教育支援システム2013	20,149

主な届出・申請関係

事業名	金額
生物地球学部 機器・器具 (創設費)	4,869
生物地球学部 図書・雑誌 (創設費)	42
グリーン元素科学共同研究	52,760
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史共同研究	17,940
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	39,894

平成 25 年度 事業報告



今年度の最重要事項として、すべての学生が4年間無事に学業を続け、社会に受け入れられる人材に成長して卒業し、全員が就職できるよう、教職員一丸となって、徹底した指導と援助を行います。



教育面では3つの学部の連携を深めて「芸術科学大学」を実体化し、一般教養教育の内容を更に改善し、遠隔地通信教育システムを使って岡山理科大学および千葉科学大学との教育連携を強化して、学生がさらに幅広い知識と教養を身につけられるように努めました。

研究面では教員全員が科学研究費補助金の申請を行うことで、研究に対する意識をさらに向上し、研究の成果を教育に還元できるよう努めました。

地域との連携では、平成24年度に設置した外部諮問委員会を平成25年度も継続して、外部のご意見を大学運営に反映させる努力を続けると共に、外部から最大限の援助を頂けるよう努力しました。

経営面では、広報活動の強化、高大連携の強化などによる入学定員の確保、そして教員対学生比の是正に努めました。

2年後に創立20周年を迎えるにあたり、これまでの20年を厳しく点検評価し、次の20年の発展のための行動計画の策定を行いました。

倉敷芸術科学大学 学長 唐木 英明

教学の充実

■キャリア教育

平成18年度から3年間、現代GPで培ったスキルをもとにさらに発展させ、「倉敷まちづくりプログラム」と位置づけ、前年度に引き続き前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力を養うための職務体験を通して、課題発見力・実行力・状況把握力等、自らの役割を見つけ、積極的に自立・挑戦していけるキャリアの形成や社会人に求められる基礎的能力を高める教育を実践に努めました。また、キャリア教育の根幹充実を図るため、就職率強化に向けた学生就職意識向上のために、全学的に今年度から新たにワーキンググループを編成し、今後のキャリア教育支援について検討しました。

■産学連携教育

倉敷市の推進する中心市街地活性化事業や経済産業省所管の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業と協力し、都市づくり、産業、観光振興など地域と連携した人材育成に努めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から依頼される製品デザイン・CM・アプリケーションの製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を実践しました。

■高大連携教育

文部科学省SSH(スーパーサイエンスハイスクール)採択校の岡

山県立玉島高等学校とはIT科学や生命科学分野、岡山県立総社南高等学校・香川県立高松工芸高等学校および広島県立熊野高等学校とはキャリア教育や美術工芸分野、岡山理科大学附属高等学校、吉備高原学園高等学校、英数学館高等学校とは美術工芸、デザイン、アニメーション、IT科学分野などでの連携を引き続き行ない、大学、高校間の境目のない接続教育と本学の教育理念「芸術と科学の協調」の実現に努めました。また、11月22日に新たに倉敷高校と教育提携を結び、倉敷文化を担う人材の育成を行っています。

■高知県北川村との包括連携協定の締結

10月24日フランスの印象派画家クロード・モネの自宅庭園を再現した観光施設「モネの庭」がある高知県北川村と包括連携協定を結び、素晴らしい創作環境を活用し、学生がさまざまな社会経験を積ませることができる教育の場として活用しています。

■初年次教育

昨年度に続き、学習支援センターを中心に入学前の新生生に対し、「Learning Support(入学前教育課題集)」を作成、送付し、新生生が大学生生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を充実させました。入学後は、1年次対象に前・後期、基本英語・基本数学・基本化学・基本物理の4科目8単位の修得を可能とし、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる態勢を加えることにより、初年次教育を充実させるよう努めました。

■「鈴木章ケミストリーネットワーク」の創設と化学教育

化学教育の普及をめざして、平成24年5月に設立された「鈴木章ケミストリーネットワーク」の記念講演会(通算3回目)を4月4日ノーベル化学賞受賞者鈴木章本学特別名誉教授を招き開催しました。年度内に多才な講師陣による公開講演会を開催し、同ネットワークの在学生向けプログラム(Human Resource Development Program)を設置し、本学生命科学科の学生の中から研究職に就きたい人材を発掘し、一定の期間内の育成が可能かを検証しました。

■鍼灸ケアセンター

平成22年にオープンしましたヘルスピーア倉敷にて、倉敷芸術科学大学生命科学部健康医療学科の学生が鍼灸ケアセンターを実習利用し、相互の連携を深めています。平成25年3月12日に鍼灸治療院を開院し、倉敷芸術科学大学有資格教員が下記の日程にて外部診療を行い、次年度以降も継続して行っています。

毎週火・木曜日、第3金曜日

9:30~13:00、14:00~18:00



教育改革支援

■大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山は、岡山県内の高等教育機関の連帯と相互協力により、持てる知的資源を積極的に活用し、また、地域社会および産業界との緊密な連携推進によって、「時代に合った魅力ある高等教育の創造」と「活力ある人づくり・街づくりへの貢献」を目指し、平成18年4月に設立されました。この大学コンソーシアム岡山では、上記目的達成のため、岡山県内の16大学が連携し、(1)大学相互の協力と情報交換、(2)地域社会との交流と生涯学習の推進、(3)地域高校との連携、(4)地域創生学の構築、(5)地域発信による国際交流を行っています。本学は連携の中で、相互単位互換としてE-learningで開設する倉敷まちづくり科目を3科目提供しました。

■産業界のニーズに対応した教育改善

平成24年度文部科学省選定、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に応募した「産

業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」が厳正な審査の結果採択になりました。この事業は中四国の18大学が連携し、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成を図ることを目的としています。具体的に本学では(1)インターンシップの充実、(2)キャリア教育の充実、(3)学生マイスター制度の充実、(4)e-ポートフォリオの充実の4つの取組を中心に事業を展開しました。取組の概要は、<http://www.kusa.ac.jp/competitive-funds/cultivation/> を参照。

地域社会貢献

■倉敷みらい講座の開講

産業科学技術学部14名の教員による市民向けの公開講座を7月より月1、2回計15講座を倉敷まちづくりセンターや倉敷美観地区内施設を会場に開講しました。

学科・専攻等新設

■芸術学部 メディア映像学科

マンガ・アニメ専攻、ゲーム・Webデザイン専攻に加えコミックイラスト専攻、さらに映像・写真専攻に変わり映像・放送専攻の4専攻を設置し、進化するメディア環境に対応した専門性の高い指導でジャンルを超えた幅広い基礎教育によるメディア技術とコンテンツビジネスを総合的に理解させ、質の高いコンテンツを創造するクリエイターを育成しています。

申請・届出関係

■学部・学科組織

芸術学部において、従来のデザイン学科に美術工

芸学科を統合し、デザイン芸術学科とし、メディア映像学科と併せて2学科としました。産業科学技術学部においては、経営情報学科に観光学科を統合し、観光コースとして教育内容を引継ぎ1学科としました。生命科学部においては、従来の生命動物科学科を動物生命科学科に名称変更および健康科学科に健康医療学科を統合し、健康科学専攻と鍼灸専攻の2専攻を設置しました。鍼灸専攻については、従来の健康医療学科の教育内容を引継ぎ、学部全体を4学科としました。

キャリア支援

■就職ガイダンス・就職対策講座等

就職ガイダンスは、1年次生、2年次生の低年次を対象に年次毎に数回開催しました。早期から学生の就職に対する意識の向上を促し、3年次生対象ガイダンスへ移行できるようにしました。3年生前期からは、4年次生の内定者報告会をはじめ、マナー・メイク講習、個人/集団面接トレーニングや集団討論トレーニングなども取り入れて実施しました。就職対策講座を12月に実施し、履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用試験対策講座を通年で実施し、公務員希望者を支援しました。

■職業適性等

3年次生対象に、年2回(7月・10月)SPI適性模擬検査を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映しました。また、11月には就職実践模試(一般常識・基礎学力テスト)やエントリーシート攻略テストを実施するなど、実際の就職試験に備えました。

■就職支援

就職関連情報を、学内主要箇所に設置した大型表示モニターにリアルタイムで表示するとともに、学生の携帯電話やパソコンにメールで配信し、適時に情報を提供しました。また、学生は本学向け求人情

報をキャリアセンターホームページや携帯サイトで閲覧できるほか、学生控室に設置した求人情報検索用タッチパネルでも常時閲覧可能としました。さらに、就職活動の質問、不安、悩みなどの質問ができるように、24時間メールにて学生対応にあたりました。採用試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

■就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京（11月）、広島・大阪（3月）で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。また、2月には企業担当者を本学に招いて行う学内就職懇談会を開催し、参加企業と学生との面談会、教職員との情報交換会を実施しました。

受賞・課外活動

■主な受賞

- 第47回日本伝統工芸染織展 入選1名
- 第56回日本伝統工芸中国支部展 入選1名
- 2013京展 入選4名
- 第64回岡山県美術展覧会
 - 洋画部門 入選1名
 - 日本画部門 岡山県教育長賞、県展賞2名
 - デザイン部門 山陽新聞社賞、県展賞1名、入選6名
- 工芸部門 岡山県知事賞、県展賞1名、入選2名
- 第27回日本煎茶工芸展 入選1名
- 地域発デジタルコンテンツ（総務省総合通信局主催）
 - 総務大臣奨励賞 メディア映像学科映画・CMコース
- 第7回バトトリング国際ショナルカップ 団体銀メダル
- 第31代倉敷小町（倉敷観光PR大使）任命

■部活動報告

- 弓道部

第61回全日本学生弓道選手権大会
個人戦出場2名

○柔道部

第68回国民体育大会 岡山県代表
成年男子1名選出

○バスケットボール部

(男子)中国大学バスケットボール選手権春季大会 3位
中国大学バスケットボール選手権秋季大会 2位
第65回全日本大学バスケットボール選手権大会出場
第68回国民体育大会 岡山県代表
成年男子1名選出

(女子)中国大学バスケットボール選手権春季大会 2位
中国大学バスケットボール選手権秋季大会 優勝
第65回全日本大学バスケットボール選手権大会出場
第68回国民体育大会 岡山県代表 成年女子3名選出、広島県代表 成年女子1名選出

○陸上部

第34回中四国私立大学対抗陸上競技選手権大会
女子4×100m 優勝、女子4×100m 2位、女子400m 3位、女子砲丸投げ 3位、女子円盤投げ 3位

○フィギュアスケート同好会

第7回西日本学生フィギュアスケート選手権大会
団体総合3位、個人男子1位、個人女子12位
フィギュアスケート日本代表ジュニア世界大会(スロバキア大会、チェコ大会)金メダル
第82回全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会 優勝
ISUグランプリファイナル国際フィギュアスケート競技大会2013
ジュニア男子シングル4位
第82回全日本フィギュアスケート選手権大会 8位

学生募集

■重点地区を強化した広報戦略

昨年からの県内（地元）を重視した募集活動を継続して展開し、さらなる志願者の増加をめざしました。一昨年からの福岡で開催している合同説明会において、3年目という節目で、入学者増となるよう早期の企画発案、各高校への呼びかけを強化しました。

■資料請求者アップ対策

志願率の高い資料請求者の数を増やすことを目的に、今年度は資料請求受付システムに新規参画しました。さらに、各学部学科の分野に関心を持つ生徒を対象とした、業者企画のDMによる幅広い情報発信も展開し、多方面からの請求者アップを目指しました。

■関心度アップ対策

資料請求者へさらなる関心を持ってもらうよう、大学トピックス(芸科大通信)チラシやDMをタイムリーに発信することにより、接触回数を増やし関心度アップを狙いました。

■合格者対象説明会

合格者に対しての説明会(11/16、2/15)を実施し、アパート、奨学金など合格者やその保護者の抱える疑問や不安を解消し、歩留まりの強化に努めました。

■知名度アップ対策

大学の体育館南側壁面にLED照明の大型大学名看板を設置しました。また、新倉敷駅・倉敷駅に看板を設置および倉敷市民を対象とした市民生活便利帳に広告を掲載し、地元知名度のアップをめざしました。

人事・組織関係

■学長顧問・副学長・学部長等の改選

任期満了に伴い、学長顧問、副学長、副学長補佐、学部長、研究科長の改選が行われました。学長顧問は、土井章氏(再任)、副学長には、加計悟氏(再任)、藤原敏勝氏(再任)、副学長補佐には、萬代忠勝氏、また、芸術学部長・芸術研究科長は、児島塊太郎氏、産業科学技術学部長・人間文化研究科長には、小山悦司氏、生命科学部長・産業科学技術研究科長には、宮野善盛氏(再任)が4月1日より就任しました。

■別科

諸外国からのわが国への留学希望者の諸々の要因による激減に伴い、神戸留学生別科を平成26年3月31日を持って廃止しました。また、調理師別科については、当該在学生在が卒業したため、平成26年3月31日付で廃止しました。

学内環境整備

■厚生施設(食堂)の改修整備

食堂を一部増設・改修し、4月より運用を開始しました。学生が食事の時間のみの利用に限らず、グループ学習の場、友人と会話を楽しむコミュニティの場としての多機能利用を可能にした施設に整備しました。

内部質保証

■外部諮問委員会

学長の諮問機関として、4分科会25名からなる外部諮問委員会において、関係機関との緊密な連携のもと、大学を取り巻く状況と課題を確認し検討を進めました。次年度以降は、答申を踏まえ円滑な施策の展開を図ります。

主な行事

4月4日	入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式
4月6日 ～10日	新入生・在学生オリエンテーション
4月7日	大学院(通信制)入学宣誓式
4月11日	前期授業開始
4月13日	霞祭
6月9日	来て見ん祭(オープンキャンパス)
7月27日 28日	オープンキャンパス、教員免許状更新講習会
8月1日	前期定期試験

～7日	
9月14日	教育懇談会(地方会場)
9月21日	教育懇談会(本学会場)
9月23日	学部学位記授与式、留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月24日	後期オリエンテーション

9月25日	後期授業開始
9月28日	オープンキャンパス
10月26日 27日	芸科祭
11月20日	就職懇談会(東京会場)
2月4日 ～8日	後期定期試験
2月12日	就職懇談会(本学会場)
3月7日	就職懇談会(広島会場)
3月14日	就職懇談会(大阪会場)
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員		在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人			留学生	社会人		
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	3	0	0	12	12	3	1	
	芸術研究科(修士)	20	7	0	0	40	13	0	0	
	産業科学技術研究科(博士)	4	0	0	0	12	4	0	0	
	産業科学技術研究科(修士)	16	13	0	0	32	16	0	0	
	人間文化研究科(修士)	15	4	2	0	30	9	7	0	
大学院 計		59	27	2	0	126	54	10	1	0
芸 術 学 部	美術工芸学科	35	14	0	0	145	90	2	0	
	メディア映像学科	35	49	2	0	132	168	10	0	
	デザイン学科	35	27	1	0	135	124	2	0	
	計	105	90	3	0	412	382	14	0	0
技 産 業 学 部	IT科学科	(募集停止)	—	—	—	30	19	1	0	
	起業経営学科	(募集停止)	—	—	—	30	20	14	0	
	経営情報学科	50	29	5	0	162	107	49	0	
	観光学科	45	14	6	0	182	99	52	0	
計		95	43	11	0	404	245	116	0	0
生 命 科 学 部	生命科学科	45	59	0	0	180	195	1	0	
	健康科学科	55	66	0	0	225	222	0	0	
	生命動物科学科	65	65	0	0	270	279	0	0	
	生命医科学科	50	54	0	0	190	211	0	1	
	健康医療学科	30	15	0	0	90	45	0	2	
計		245	259	0	0	955	952	1	3	0
学部 計		445	392	14	0	1,771	1,579	131	3	0
通学制 合計		504	419	16	0	1,897	1,633	141	4	0
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	0	0	0	20	2	0	2	
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0	
	人間文化研究科(修士)	30	2	0	2	60	6	0	6	
計		60	2	0	2	120	8	0	8	0
学 部 (通 信 教 育 課 程)	産業科学技術学部	(募集停止)	—	—	—	—	2	0	0	
	計	—	—	—	—	—	2	0	0	0
通信制 合計		60	2	0	2	120	10	0	8	0
総合計 (通学制+通信制)		564	421	16	2	2,017	1,643	141	12	0
別 科	留学生別科	60	3	3	—	80	9	9	—	25
	神戸留学生別科	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	調理師別科	40	3	0	0	40	3	0	0	
	製菓衛生師別科	40	8	0	0	80	21	0	0	
	別科計	140	14	3	0	200	33	9	0	25

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成25年5月2日～平成26年3月31日)に入学した者です

(単位:人)

■ 卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	3	3	3	3	100%	-			2
	修士	14	-	7	7	100%	1			0
学部		399	-	291	268	92%	24			26
大学院（通信制）		5	-	-	-	-	-			0
学部（通信教育課程）		0	-	-	-	-	-			2
別科	留学生	8	-	-	-	-	8	1		0
	調理師	3	-	2	2	100%	-			0
	製菓衛生師	11	-	11	6	55%	-			0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成26年4月1日現在）

（単位：人）

主な就職先	(株)イマジカデジタルスケープ、東映アニメーション(株)、(株)両備システムズ、EBM(株)、岡山薬品工業(株)、広島和光(株)、新日本科学(株)、ヤスハラケミカル(株)、(株)農協観光、はるやま商事(株)、神戸赤十字病院、心臓病センター榊原病院、イオンペット(株)、(株)グラスアート黒木、菅原工芸硝子(株)、岡山県警本部、平塚市消防本部、丸亀市消防本部、日航ホテル倉敷、児島ホテル、バーカリーヘアレイズ、コロソパージュ、(株)フルミッシュ、(有)光商会、Honda Cars
-------	---

■ 教職員数

(平成25年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	2	66	24	13	6	1	6	119	64

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		2,479,088	2,536,518
補助金収入		492,515	503,355
その他収入		277,807	105,852
帰属収入合計		3,249,410	3,145,726
基本金組入額合計		△ 74,947	△ 198,390
消費収入の部合計		3,174,463	2,947,336
人件費		2,345,625	2,135,710
教育研究経費		989,473	997,344
管理経費		252,886	253,244
その他支出		35,941	19,022
消費支出の部合計		3,623,925	3,405,320

■施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
1号・2号棟空調機更新	58,800
13・16号芸術学部棟空調機更新	18,417
16号棟1階4155室透過電子顕微鏡 用設置室工事	15,120
16・11号棟ろくろ演習・実習室改修工 事	5,150
大学名看板設置工事	16,995
疑木階段設置	715
厚生会館机、椅子	9,700
セルソーター (補助内定額：51,765)	77,648
健康医療学科機器	3,950
健康医療学科図書	400

平成 25 年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



学生ひとりひとりの能力を最大限に伸ばすために教職員が一致団結して指導し、学生の満足度を高められるよう努力します。

「地域の知的センター」となり、存在感を高められるように努力します。

1. 学習支援センターの機能を向上させて、初年次教育の充実を図ります。東京サテライト教室を開設して危機管理学研究科の教育研究活動を拡充します。
2. 「利根川河口域の新規な微生物統御法に基づく安全な農畜水産イノベーションのための研究基盤形成」というテーマで 25 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を目指します。
3. 看護学部の申請、審査に適格に対応し、平成 26 年度開設を目指します。
4. 防災・減災都市作り、好適環境水を用いた陸上養殖の実用化、銚子ジオパークの具体的な活用法を含む産学官連携体制を作り、国の Center of Community(COC)構想の実現を目指します。

千葉科学大学 学長 赤木 靖春

教学の充実

■大学の目的、各研究科、各学部の目的

学園建学の理念に基づき、大学の目的を教育では「『健康で安全・安心な社会の構築』に寄与できる人材の育成」、研究では「『健康で安全・安心な社会の構築』の探求」、社会貢献では「地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画」と定め、実施します。

各研究科各専攻においては教育研究上の目的をそれぞれ定め、各学部各学科もそれぞれ教育目標を設けて、それに向けて実施しました。

■銚子ジオパーク

銚子市にある屏風ヶ浦の地層、犬吠埼の浅海堆積物などの優れた貴重な地質遺産を後世に残すと共に観光資源としても活用し、地域住民の郷土愛の育成、環境意識の向上、地元の中学生への良質な地学教育の提供等、銚子市と協力して銚子ジオパークとして認定を受けました。この認定を通して地元の中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献します。

■千葉科学大学 危機管理学研究科

東京サテライト教室を開設しました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き教員免許状更新講習を実施しました。

8月3日～8月7日の5日間で延べ494名が受講

講習科目

必修領域1講座 8月3日～4日(12時間)

「教育の最新事情」

選択領域12講座 8月5日～7日(1日5～6講座を3日実施)

「薬と人間」

「対人関係の心理学」

「地域発：防災教育のかたち」

「子どもにおける健康危機管理と心肺蘇生法」

「学校の環境衛生～放射線、水、空気、病原体検査～」

「理科指導の体験学習講習 遺伝子研究の現在」

「学校のリスク・危機管理研究」

「コンピュータ・シミュレーション体験実習」

「銚子ジオパークのジオサイトを利用した体験型授業の展開」

「イスラームの教義と慣習」

「物理・化学実験と治療薬の仕組み」

「児童・生徒のキャリア教育とその評価」

産官学連携

■CISフォーラム

有識者による講演会、大学、企業の研究者が最新の研究成果やシーズを平成25年10月19日 銚子商工会議所にて紹介しました。

■COC (Center of Community) の推進

地域を志向した大学として、地域の課題へ向かって大学を開き、地域再生の核となる地(知)の拠点を目指すことで教育・研究・社会貢献を活性化します。

平成26年度に向けて

平成25年度より平成26年度開設に向けて、看護学部の設置準備を行い、12月18日付で認可となりました。

キャリア支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行いました。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元および周辺地域企業に重点を置いて開拓を継続しました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。

また、3年次生(薬学科は5年次生)全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期休暇中に1～2週間の就業体験を実施しました。

■合同企業説明会

採用担当者と本学学生がブース別に面談する合同企業説明会を2回(12月、2月)学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座(主に1・2年次対象)、実践講座(3年次対象)を開講しました。また、筆記試験合格者に対して、面接対策セミナーを実施しました。

業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者、などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子市周辺の地元企業の開拓に努めました。また、加計グループ5大学1短大共催の企業懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

学生募集

日本初の危機管理学部を擁することを強みに、『人を助けたい、という人の大学』をキャッチフレーズに薬学部、危機管理学部をアピールしました。国家資格である薬剤師、臨床検査技師等の取得、また消防官、警察官など公務員にも強いイメージも強調し、募集活動を強化しました。また平成26年4月に看護学部を開設予定し、医療系、薬学系、看護系の3本柱での学生募集も同時に行いました。

■千葉県、茨城県の通学圏の高校に対する広報活動の強化

スクールバスの運行増便を行い、学生の利便性向上を図りました。さらに出張講義等を中心に大学との交流を一層強化し、地元の大学ということをアピールしました。

また、茨城県内の小中学生を中心としたイベントである『青少年のための科学の祭典』に参加し、学術内容や就職実績など、本学を広く積極的に推し進めました。

■支局長による広報活動の強化

現在1都11県に支局長を配置しています。今年度は、支局長への情報提供を一層強化し、入試広報課員と一緒に高校訪問を計画するなど、広報活動を強化しました。

■教育提携校締結の拡大と関係強化

今年度は協定を締結した高校との相互関係を一層強化できるよう、出張講義、オープンキャンパス参加は勿論、研究発表等の開催や、PTA総会等の開催等の働きかけを行いました。

■出張講義の拡大と内容の充実

進学説明会と並び、学外において高校生と直接話が出来る出張講義の実施回数を増やしました。今後も、学部学科の多種多様な内容を、多くの高校生に伝えていきます。

■留学生の募集充実

国際交流の観点から留学生の募集を充実させました。特にアジア地域からの留学生募集に重点を置いて実施しました。

■e-広報の充実

本学ホームページの内容やユーザビリティをさらに充実するとともに、各業者の主力なWeb企画と連動することで、様々な受験者層に働きかけ、資料請求者の拡大を図りました。また資料請求者へメルマガを発信しました。

■オープンキャンパス

薬学部と危機管理学部が共同して行う災害救助演習は継続して実施しました。全てのオープンキャンパスにストーリー性を持たせ、大学のコンセプトを表現しました。企画の中では、参加者が在学生や卒業生と交流が持てるようにしました。また、平成26年4月開設予定の看護学部も含めたオープンキャンパスや看護学部独自の説明会も開催しました。参加した高校生が、「この大学で、この研究室で、こんな研究をしてみたい」という夢と希望が持てるような内容を企画しました。

■その他

- 1) 合格者へ対しての入学前相談の実施
- 2) 地元の各種団体との連携
- 3) 県人会活動
- 4) 高校との親密な関係の構築
- 5) 常時学内を見学
- 6) 県別目標入学者数設定による意識の向上
- 7) 交通広告の実施

国際交流

■留学生受入

4月2日の新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の中から日本語能力検定のN1に合格した学生の協力を得て新入生への指導を行いました。

■Japan Bowl

4月に米国にて行われる Japan Bowl に出展しました。

■海外からの研修団受入

4月	シンガポール交換留学生
6月	Great Falls 研修団 (小学校)
	Langley 高等学校研修団
7月	アメリカ・ブラジル研修団
	フィンドリー仕事体験生終了
10月	シンガポール訪日研修団

■日本語能力検定試験

7月・12月の年2回、受験を実施しました。

■海外へ研修団派遣

8月	ライト大学へ海外研修団派遣
	フィンドリー大学へ海外研修団派遣
	ブラジル2大学へ海外研修団派遣

■特別科目等履修生受入 9月

平成26年度4月の学部入学を目指す学生を入学予定日の6ヶ月前から特別科目等履修生として受入、入学までに日本語及び日本での生活習慣になじめるように指導を行いました。

■一日研修旅行 11月

留学生同士の懇親を図ると共に日本人学生との交流を図りつつ、日本文化・地理などに慣れるように千葉県内（鋸山）及び近隣を訪問しました。

■加計杯日本語弁論大会 11月

加計グループの関連校に通う留学生を対象に各設置校毎に代表者を決め、岡山で開催される決勝大会へ代表者を送りました。

■English Camp (高校生対象) 3月

銚子市内のある高等学校に通う生徒を対象に本学において2日間の英語セミナー（会話を中心）行いました。

主な行事

4月2日	新入生オリエンテーション
4月3日 ～5日	新入生宿泊研修
4月5日	在校生前期オリエンテーション
4月7日	入学宣誓式
6月2日	オープンキャンパス
7月27日 ～28日	オープンキャンパス
7月31日 ～8月10日	前期定期試験
8月3日 ～7日	教員免許状更新講習会
8月24日	オープンキャンパス
9月7日	教育進路懇談会（地方）
9月15日	教育進路懇談会（本学）
9月20日	後期オリエンテーション
9月28日	オープンキャンパス
10月19日	CISフォーラム
11月16日 ～17日	青澄祭（大学祭）
11月20日	就職懇談会（東京会場）
12月14日	合同企業説明会
1月22日 ～2月1日	後期定期試験
3月	就職懇談会（広島会場）
3月	就職懇談会（大阪会場）
3月25日	学位記授与式

■10周年記念式典

千葉科学大学は、平成25年度で開学10周年を迎えます。大学を挙げて10周年の記念式典(10周年記念講演、清澄祭、その他)の準備を行います。

また、10周年記念誌を作成し、平成26年5月に予定している記念式典にて配布予定です。

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		秋期入学 ※			
			留学生	社会人		留学生	社会人				
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	0	0	0	6	1	0	0		
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	3	0	0		
	薬学研究科（修士）	10	6	0	0	20	10	0	0		
	危機管理学研究科（博士）	3	2	0	1	9	4	0	3		
	危機管理学研究科（修士）	5	3	0	2	10	8	2	2		
大学院 計		26	11	0	3	60	26	2	5	0	
学 部	薬 学 部	薬学科（6年制）	120	120	1	0	840	605	14	3	
		薬科学科	(募集停止)	—	—	—	—	11	0	0	
		動物生命薬科学科	(募集停止)	—	—	—	—	2	0	0	
		生命薬科学科	40	23	0	0	180	99	2	0	
	計		160	143	1	0	1,020	717	16	3	0
	危 機 管 理 学 部	防災システム学科	(募集停止)	—	—	—	—	2	1	0	
		環境安全システム学科	(募集停止)	—	—	—	—	0	0	0	
		危機管理システム学科	100	96	18	0	410	395	98	0	
		動物・環境システム学科	(募集停止)	—	—	—	130	77	6	0	
		環境危機管理学科	40	29	3	0	80	66	2	0	
医療危機管理学科		80	97	0	0	330	349	0	0		
学 部	工学技術危機管理学科	40	7	0	0	170	45	12	0		
	動物危機管理学科	40	22	0	0	80	61	0	0		
計		300	251	21	0	1,200	995	119	0	0	
学部 計		460	394	22	0	2,220	1,712	135	3	0	
総合計		486	405	22	3	2,280	1,738	137	8	0	
留学生別科		40	19	12	0	40	19	19	0	0	

※ 秋期入学については、5月2日以降（平成25年5月2日～平成26年3月31日）に入学した者です（単位：人）

■卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	修了者・ 卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	11	8	8	100%	1	3	0	4
学部	326	228	210	92%	16	65	36	66

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成26年4月1日現在）（単位：人）

主な就職先	クオール、クラフト、くすりの福太郎、アストラゼネカ、ノバルティスファーマー、千葉県教育委員会、戸田中央医科グループ、東京消防庁、横浜市消防局、警視庁、千葉県警察本部、茨城県警察本部、自衛隊、神栖市役所、国立がん研究センター、昭和大学病院、富士テクノサービス、理化学研究所、独立行政法人水資源機構他
-------	--

■教職員数

(平成25年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	54	20	13	11	3	1	105	56

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		2,699,378	2,811,139
補助金収入		357,509	392,268
その他収入		167,461	111,868
帰属収入合計		3,224,348	3,315,275
基本金組入額合計		△ 26,705	△ 63,991
消費収入の部合計		3,197,643	3,251,284
人件費		1,939,684	1,796,030
教育研究経費		1,325,989	1,316,251
管理経費		419,495	394,436
その他支出		5,791	1,109
消費支出の部合計		3,690,959	3,507,826

■施設整備計画

(単位：千円)

事業名	金額
ネットワーク機器リプレイス (新学部を除く)	59,420
講義室プロジェクター整備	4,329
防災シミュレーションセンタープロジェクター整備	4,389
事務用保管倉庫	499
航空技術危機管理学科図書(創設費)	711
温度変化型屈折率測定装置	8,558
ラーニングcommons 什器	9,660

平成 25 年度 事業報告

警 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会からいっそう信頼される高等学校づくりを推進します。



建学の理念ならびに附属高校校訓を具体的に実現するために、教育活動方針として(1)継続的な勉学の習慣と確かな

な学力を身につけさせる、(2)依存的な子どもから自立的な大人への脱皮を助ける生徒指導、(3)安全と健康に注意し自由な雰囲気醸成、をかけた。主な事業に対する報告評価は以下のとおりです。

(A) 進学実績の向上については、平成24年度を下回る不本意な結果となりました。この結果を反省し、平成26年度は補習授業の体系的拡充、授業日時の増加などによって改善を図ります。

(B) SSH事業2年目は、1年目(平成24年度)にくらべて格段に多くのプログラムを円滑に展開できました。生徒の学習意欲・探求意欲を喚起し、良い影響を与えました。3年目のSSH(平成26年度)では、全校の生徒による取り組みへと広げるとともに、基礎学力の強化にも努めます。

(C) 生徒第一主義の立場から、校内組織を簡素かつ効率の良いものに改めるとともに、教員個人が現状を認識し危機意識をもって目的遂行のために協力しました。また、将来構想についても議論を深め、その準備を順調に進めました。

岡山理科大学附属高等学校

校長 宮垣 嘉也

教学の充実

SSH校としての取り組み

- ・ 全校一丸となり、研究開発・指導に取り組む体制を構築し、実行しました。
- ・ 事務処理(特に予算管理)の厳格かつ適正な運用に努めました。
- ・ SSH事業内容
 - ① 自然体験・科学部活動の充実によるW型教育モデルの推進
 - ② カリキュラムの開発
 - ③ 言語力や国際的素養の育成
 - ④ 高大連携・接続
 - ⑤ 新しい教育評価法の研究

関連校との連携による質の高い教育の提供

■出張講義の活用

- ・ 進学理大コース(岡山理科大学より)
- ・ 健康・スポーツコース(倉敷芸術科学大学より)
- ・ アニメ・デザインコース(倉敷芸術科学大学より)
- ・ 生命動物コース
(岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・岡山理科大学専門より)
- ・ 進学医療コース
(岡山理科大学・玉野総合医療専門学校より)

■校外学習の推進

- ・ 岡山理科大学での電気系・機械系・情報系科目の受講
- ・ 科学の祭典等への参加

- ・倉敷芸術科学大学・吉備国際大学での実習（アニメ・デザインコース）
- ・池田動物園・岡山理科大学専門学校での実習
- ・山田養蜂場・山田みつばち農園での実習（生命動物コース）
- ・玉野総合医療専門学校での見学実習（進学医療コース）

学校内での学力向上取組

- ・学校行事を精選し、通常授業に加え、補習・諸検定試験の実施、模試の活用等により学力向上に努めました。

生徒指導への取組

- ・朝のあいさつ運動、自転車マナー向上運動を実施しました。また、頭髪、服装指導の強化に取り組みました。
- ・PTAと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導）や、地域の岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携強化しました。
- ・教育相談室・保健室と担任・生徒部・管理職との連携強化を図りました。また、いじめ予防のための人権学習にも努めました。

進学指導と就職活動支援

- ・関連大学を紹介する機会を増やし、関連大学への進学者の増加に努めました。また、より上位校への進学を目指し、進学補習にも取り組みました。
- ・大学訪問を行い、指定校の獲得に努めました。
- ・学校斡旋就職率98.5%を達成しました。

教職員への資質向上への取組

- ・特にSSH校を中心に他校の事例を視察し、本校の教育活動の向上に努めました。

通信制課程

教育を受ける機会を最大限に配慮し、入学、転入学については、随時可能としています。また、入学した生徒に対し、学年令の区分にはしばられない、生徒の希望、資質、進路に適合したユニークなクラス編成を設定し、生徒のニーズに合った指導を実施しました。さらに以下の内容について重点をおいて実施しました。

1. 平日コースの充実

小学校、中学校就学時において、何らかの要因で十分な教育の機会と成果を得ることが出来ない生徒に対して、平日、週2日の通学を施し、ホームルーム、所定の授業、学校行事、各種研修を計画的に実施しました。このことにより、自律・協調・継続という社会性と教養を高める指導を単位制・学年制で充実させることができました。

2. 進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率をさらに向上させるよう努めました。

3. 生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施しました。また、ホームページの内容を充実させ、募集活動に結びました。

生徒募集

■ オープンスクール・入試セミナー

オープンスクールを3回実施し、本校の概要を中学生・保護者に知らせるとともに、各科・コースを紹介・体験することで本校への関心を高めるよう努めました。入試セミナーでは、入試制度並びに出題傾向を説明しました。

また、部活動オープンスクール(8月)では、本校の運動系・文化系の部活動を中学生に紹介し、部活動体験を通して本校への入学意欲を高めました。

■ 中学校対象説明会・中学校訪問

県内および近県の中学校進路担当者に対し、本校の概要・入試制度を知らせ、生徒への周知を依頼しました。中学生・保護者にも本校の概要・入試制度を説明することにより、興味を持たせ、受験を促しました。

■ 塾対象説明会・塾訪問

塾の先生に対し、本校の概要・入試制度を知らせ、生徒への周知を依頼しました。

■地区別説明会

生徒・保護者に対し、地区別に延べ21会場で説明会を実施しました。より身近に本校を感じてもらい、本校への理解・関心を深めました。

主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月14日	入学式（通信）
5月25日	PTA総会
6月16日	後援会総会（通信）
6月19日 ・25日	球技大会
7月20日	第1回オープンスクール
7月28日	卒業式（通信）
8月25日	入学式（通信）
9月19日	体育祭

9月28日	第2回オープンスクール
10月4日	文化祭
10月5日	文化祭（通信）
11月9日	第3回オープンスクール
12月8日	卒業式（通信）
12月22日	入学式（通信）
1月11日	県外生入試
2月4～5日	選抜Ⅰ期入試
2月24日	選抜Ⅱ期入試
3月1日	卒業式
3月23日	卒業式（通信）

学生・教職員数

■在籍生徒数

（平成25年5月1日現在）

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普通科	380	314	1,140	945
	進学総合コース				
	進学医療コース				
	特別進学コース				
中高一貫コース	80	61	240	202	
進学理大コース					
健康・スポーツコース					
アニメ・デザインコース					
生命動物コース	40	25	120	84	
電気情報科					
機械科					
全日制課程 計					500
通信制課程（広域）普通科				600	258
総合計		500	400	2,100	1,489

（単位：人）

■ 卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	卒業生	就職希望者	就職者	就職率	進学希望者	進学者	進学率	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B	B/A	C	D	D/C			
全日制課程	402	68	67	99%	317	308	97%	15	0	3
通信制課程	98	10	10	100%	52	44	85%			

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	ダイハツ工業(株)本社、(株)IHI相生事業所、両備ホールディングス(株)、(株)DNP住空間マテリアル (株)トミヤコーポレーション、倉敷運輸(株)、旭電業(株)、(株)ヤマサキ水島営業所、山九(株) 他
主な進学先	独協医科大学、兵庫医科大学、奈良女子大学、岡山県立大学、愛媛大学、立命館大学、関西大学、 同志社大学、関西学院大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

■ 教職員数

(平成25年5月1日現在)

校長	教頭等	教諭	教員 計
(1)※	4	72	76

※校長は大学教員と兼務

事務職員
19

(単位：人)

財務関係

■ 消費収支

(単位：千円)

科目	年度 25年度 決算額	前年度 決算額
学 納 金 収 入	727,259	755,664
補 助 金 収 入	383,444	380,924
そ の 他 収 入	97,128	73,399
帰 属 収 入 合 計	1,207,831	1,209,987
基本金組入額合計	△ 99,929	△ 467,342
消費収入の部合計	1,107,902	742,645
人 件 費	1,075,014	1,022,611
教 育 研 究 経 費	321,696	279,462
管 理 経 費	120,415	137,250
そ の 他 支 出	35,467	38,616
消費支出の部合計	1,552,592	1,477,939

■ 施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
第九校舎新築工事 (建設仮勘定)	10,438
第十校舎1階女子トイレの改修	4,914
研修館空調機の整備	7,980
理科教育用機器備品	24,150
第九校舎取り壊し工事	19,114

平成 25 年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

中高一貫校の優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



従来の暗記や単純な演習中心から『自ら主体的に学ぶ力を身に付けると共に、学ぶ喜びを共感できる』生徒の育成を目標にし、受験

勉強にとらわれることなく、本当の学び方、学問の面白さ、学ぶ楽しさをも伝えていきました。また、本校の特色のひとつである中・大連携により、自然教室・天体観測・環境問題などの学習活動を行うことによって知識や技能の深化を図り、国際交流やボランティア活動を通じて幅広い人間性を構築し、論語をとり入れた道徳教育により正しい判断と実践ができる全人的な人材を育てていきました。

加えて本年度から下記の「立志三要」を定め、その実現のために「生活実践三則」の指導を教職員一丸となって取り組んでいきました。

立志三要

- 1、慎独・去私心
- 1、振気・勉学
- 1、忠恕・爽凜

生活実践 三則

- 1、場を清める
- 1、時を守る
- 1、礼と正す

岡山理科大学附属中学校

校長 位田 隆久

教学の充実

■クラス別教育目標

- ・スーパー選抜クラスの全国中学校偏差値60を維持し、岡山県での合格難関校を維持しました。また自ら進んで学習する「自立学習」を身につけさせることで、難関大学に合格できる学力を養いました。
- ・選抜クラスは、基礎学力の充実をはかり、学ぶことの大切さを身につけさせ、大学進学に対応させました。

■授業計画書の作成

主要5教科は授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解し、円滑な学習活動を助けました。

■チューターによる自習教室

通年で週3日開設し、生徒の自学自習能力を向上させました。

■イメージョン教育

イメージョン教育（英会話、芸術科目）を実施し国際性豊かな人材の育成を図りました。

英会話は1～3年生の全クラス、イメージョン美術はスーパー選抜クラス1・2年を対象に実施しました。

■ 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

- ・1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目指しました。
- ・2年在籍生徒の6割以上が4級以上の取得を目指しました。
- ・3年在籍生徒の3割以上が3級以上の取得を目指しました。

■ TOEIC Bridge を1・2年生の生徒に実施

- ・2年終了時には180満点中120点をスコアとすることを目指しました。
- ・150点を超える生徒にはTOEIC受験を積極的に促しました。

■ 教員研修会

『授業改善』を目的に教員研修会を1～2回実施しました。

生徒指導

■ 社会性規範育成への取組

校則のない学校としてスタートしました。しかし、社会的なモラルは学校生活においても必要です。学校独自としての規則はほとんどなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から子どもたちを指導し、また子どもたちとの話し合いも大切にしました。

■ 服装指導の実施

服装モットー「凜とした爽やかさ」規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを目指し学校生活の中で教職員が呼びかけていきました。

■ 将来につながるリーダーの育成

体育祭、学習発表会、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事のほとんどを実行委員会が主体性を持って運営していきました。その中で企画力、実践力を学び総合的に人間力を高めるようにしていきました。また、今年度より学習発表会を「爽凜祭」

と名称変更し実行委員の企画運営でより充実したものにしました。

■ 挨拶の励行

気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるようにしていきました。

■ 情報教育

インターネット等によるトラブルに巻き込まれないための情報教育を行いました。

■ 家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、生活ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしていきました。

■ 教育相談室・保健室との連携

思春期である中学生期を心身ともに健康で過ごすために綿密に連絡を取り、連携を強化しました。また、不登校の生徒との連絡も密に行っていました。

教務関係

■ 授業・学習関係

- ・1単位当たり年間35時間の授業時間を確保する、授業変更、代替授業(冬季補習等)で授業時間を確保しました。
- ・国語、数学、英語で習熟度別授業を徹底しました。ただし、スーパー選抜クラスはクラス単位の授業としました。
- ・自習教室や指名者補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を創設する。部活動より補習等の学習活動を優先させました。
- ・休業期間中の補習は進路指導課と連携し、夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。実施科目は国語、社会、数学、理科、英語としました。部活動より指名補習を優先させました。

平日にも復習を主とする補習を実施しました。

■カリキュラム・シラバス関係

- ・授業(数)中心のカリキュラムから学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成しました。平成26年度以降、週当たり36時間の授業を、数時間減らし、補習や自習教室で学習の遅れを取り戻す機会の創設を検討しました。国語、数学、英語の授業計画書(シラバス)に数値化できる到達目標を設定しました。これにより授業を中心とした学習活動の方向性の共有が授業者と生徒の間でより強くなることをねらい検討中です。

■考査関係

- ・定期考査の成績処理終了後、成績会議を開き、各学年の学習進捗状況の把握、授業計画書の見直しを行いました。
- ・成績不振と判定する基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行いました。指導期間中の部活動は禁止としました。

■情報発信

- ・学年通信を発行し、生徒の現況を家庭に伝え教育活動への協力を求める。文書とウェブの両方を活用しました。

生徒募集

■塾との関係の強化

- ・出来るだけ多くの塾との関係を深めるために年間3回の一斉訪問を実施するとともに、拠点となる大手塾については、年間数回の訪問を実施した。
- ・塾との関係を深めるために情報の共有を行った。
- ・入試関係の情報を提供するために年間2回(入試説明会・入試結果説明会)を実施した。

■小学校への情報提供

- ・中学受験が必要な私立小学校との連携強化を行

った。

- ・重点中学校を決め、出来るだけ多くの情報を書面で連絡した。

■全体への広報

- ・ホームページによる情報提供の迅速化。
- ・オープンスクール・理科実験教室
7月27日(土)、8月24日(土)
8月31日(土)、9月21日(土)
- ・入試説明会の実施
10月19日(土)、11月8日(金)
- ・適性検査対策講座(10月19日(土))
の実施により本校への理解を深めた。
- ・本校生徒の様子を的確に伝える広報リーフレット(ビバ理中)を年間3回発行した。
- ・重点地区の地区別説明会実施を行った。

主な行事

4月9日	入学式
4月18日	健康診断
4月20日	授業参観
5月26日	PTA総会
6月13日	音楽鑑賞教室
9月5日	体育祭(岡山ドーム)
11月2日	爽凜祭(学習発表会)
1月21日	百人一首大会
2月2日~4日	校外活動
3月19日	義務教育修了式
3月20日	修了式
3月20日~28日	海外研修

学生・教職員数

■在籍生徒数

(平成25年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	65	240	175

(単位：人)

■教職員数

(平成25年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	1	17	19	2

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	95,149	84,394
補助金収入	61,601	61,165
その他収入	4,054	32,019
帰属収入合計	160,804	177,578
基本金組入額合計	△ 224	△ 812
消費収入の部合計	160,580	176,766
人件費	156,714	206,906
教育研究経費	34,857	37,148
管理経費	14,734	14,262
その他支出	0	0
消費支出の部合計	206,305	258,315

■施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
省エネ対策（校舎ガラスのコーティング）	1,890
教室生徒用机・イス20台	328

平成 25 年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、高等学校、地域、関連業界の皆様に支持され愛される学校を目指します。



1. 教員としての資質の向上を図るべく校内研修に加え、校外での各種研修会へ教員を派遣しました。授業観察並びに授業アンケートを実施して、教員の授業力アップに奏功しました。

2. 教員の研究を支援し知的財産の発信を奨励。
3. 平成26年度に向けて、非常勤講師の報酬単価の公正化を図り、財務改善の方策を確立しました。

4. キャリア支援のためにガイダンス回数を増やしました、講師の招聘を推進して内容の充実に努めました。結果、学生が早期にインターンシップに取り組むなど、学生の就業意識の高揚が図れました。

5. 教職員の共通理解と意思の疎通を図り、危機意識の共有により強靱な教職員組織力の構築に努めました。

6. 学校評価、学校関係者評価を実施し、集計・分析を行い、Web公開に踏み切りました。また、建築、動物看護そしてアクアリウム学科において、職業教育の実践を図るべく、教育課程編成委員会を組織しました。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

教学並びに施設の充実

■きめ細かい教育

チューター及びサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとり学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓蒙等から満足度の高い学生生活をサポートします。学生に対して専門教育の重要性、青年期の精神面や思考等について学生対象の講演会を実施しました。

■産官学連携の教育

平成21年度より、真庭市と包括教育協定を締結しました。そして、平成22年度は「温泉」をキーワードに動物看護の分野により、「温泉入浴の動物に対する効果」の研究や、建築学科においては「温泉街の活性化プラン（例）」の提案など自治体と専門学校の連携による教育を開始しました。温泉実験について、初年度は異常気象および研究の初歩段階により、特に夏場はデータにばらつきなどもありましたが、平成23年度における実験では犬にもたらず温泉効果は入浴後に現れていることが確認でき、平成23年12月5日には研究の中間発表を行いました。来年度に向けても、更なる研究を行いたいと考えます。岡山県および岡山市が開催するそれぞれの動物愛護フェスティバルに積極的に関与・参加し動物愛護啓蒙運動に参画しました。アクアリウム学科においては、企業との受託研究を積極的に展開し、各種の実験データから実用的な水生生物の飼育・繁殖の実習をおこない、企業との連携を図りました。

■カウンセラーの配属

従来、精神的な悩みを抱えた学生は岡山理科大学等が招聘したカウンセラーに相談をしまいましたが、潜在的に悩みを抱えた学生も多く本校に専門のカウンセラーを定期的に招聘し学生並びに教職員の心の問題解決などのケアを行っています。今年度についても継続し、学生にとって一層利用し易くなるようカウンセリングが出来る日を増やし、学生生活の充実を図りました。今年度の相談件数は43件あり、学生の精神的な悩みをカウンセリングにより、軽減できているとの報告がありました。

■地域との交流

地域社会に愛され、育まれ、地域と共に教育活動を展開して参りました。

教職員の意識改革

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員及び非常勤講師対象に実施している授業アンケート結果を踏まえ、より良い授業が展開できるよう改善指導を実施しました。

専任教員の授業担当時間を精査し、職位、校務分掌を考慮し均等化を目指し、また自己研鑽できる時間を創出するよう配慮しました。

事務職員の対応及び施設設備等についてアンケートを実施し、学生の満足度アップに繋がるよう教育的考慮を加味し実践しました。

■コスト意識

人件費、光熱水費、教育・研究用消耗品について有効活用、合理化、節約について事ある毎に啓蒙し、エコ教育に繋げております。今後も継続的に実施する予定です。

学科・コースの充実

■動物看護学科 3年制

高度医療に対応する動物看護師養成と動物看護

師の国家資格化に対応するため、従来の2年制コースに加えて、3年制のコースを平成22年度から開始しました。

少子高齢化が進む昨今、家庭内でペットはコンパニオンアニマルとして家族の一員、時にはそれ以上の存在です。そのコンパニオンアニマルの健康、長寿を手助けする獣医師をサポートする幅広い専門技術と知識を備えた動物看護師を養成します。第一回目の実施した「動物看護職統一認定試験」では100%の合格者を出し、今年度は36名全員が受験し、35名が合格しました。

また、この3年制コースの目的は、動物看護師の制度化に伴う看護師の公的資格化とともに、現在の動物医療界における高度医療への要望、食品メーカーや大動物分野等の小動物病院以外への地域の拡大、人と動物の関係を担う福祉分野のニーズにも対応しております。

平成26年度に向けて

■既存学科の充実

動物系の学科を立ち上げて11年を迎えました。卒業生が、各現場での活躍や新しい分野での今後の発展が期待されるペット業界ではありますが、景気低迷等の影響から市場がやや縮小傾向ではありますが、既に現場で活躍している卒業生を手本として、更に教育向上し、充実させたいと考えています。

今後の岡山理科大学専門学校の繁栄を期して既存の分野、建築系、アクア系、動物系の連携を図り、これから更に充実した教育内容や資格取得に努め、就職域の拡大に努めます。

■学校周辺の地元を対象とした学校見学会

本校の教育内容を知って頂くことにより、更なるご理解・ご協力を賜るため地元の方々を対象とした学校見学会を実施、近隣地区の中学生や小学生授業研究も開催しております。今年度も引き続き、学校見学会を開催し本校の教育内容や施設などを多くの方々が学校を訪問できるよう準備しました。

キャリア支援

■ 就職活動ガイダンス

1年生	4月	キャリア教育講座
	6月	職業理解講座
	9月	進路選択支援講座
	11月	インターンシップ実践講座
	2月	就職活動講座
2年生	4月	履歴書、面接指導
	6月	内定礼状の書き方指導

■ キャリア教育

これまでの課外時間（5時限）を利用した就職ガイダンスに加えて、ホームルームの時間を利用したクラス単位での就職ミニガイダンスを随時実施し、きめ細かい就職活動支援を行う機会を設け、実施展開しました。

■ 就職活動支援

1年次12月の段階での進路希望調査書を基に1月より第一希望の分野を決定していきます。動物系においても一般企業を希望する学生は2月より直ちに就職活動を開始させ、満足度の高い企業への就職を目指すよう指導します。動物系専門職への就職は3月以降のインターンシップ実習により第一志望企業への内定獲得を目指します。

また、学生の就職意識啓蒙と就職相談の充実を図るため、就職支援会議を定期的に開催し、就職課と各学科長との連絡・協力を密にしていきます。

関係事業所への訪問に力を入れ、就職先の開拓に努め、学生のニーズに応えます。

学生募集

広報活動と就職先事業所開拓を系統的に実施し、相乗効果を生む取組を模索します。

■ 資料請求者への積極的なアプローチ

ホームページ、進学情報誌等を通じた資料請求数は

増加傾向にあります。気軽に資料請求が行えるようになった一方、オープンキャンパスや進学相談会等の対面でのアクション数には変化がみられない。この点に変化を加えることで受験者数を増加させたいと考え、資料請求者の学年や時期に合わせ継続的に情報の提供を行い、オープンキャンパスなどへの動員を促します。また保護者への情報提供も重要と考え送付内容を充実させております。

■ 卒業生の情報提供

高校訪問時の本校PR中心の内容に加え、卒業生の学生生活の状況を伝えるため、学生から出身高校へのコメントをもらい、実習中の様子が分かるよう写真を撮って高校に提供しました。このシートを作成し配布することでより身近な学校に感じてもらえるよう行いました。

■ 社会人の受験生増加を図る

18歳人口の減少により社会人の受験生を各学科において増加させることに力を入れております。

今年度も社会人入試を実施し、既卒者へ社会人入試の実績・PRを行う事で学校全体で35名が入学いたしました。

■ 広報強化地域

建築系、動物系においてそれぞれ学生確保が期待できる地域を分析し、積極的にメディア、高校訪問、説明会を駆使し広報活動を展開しました。

■ 単位制、長期履修制度

完全単位制への移行を目指すと共に、長期履修制度を取り入れ、就労者に対しての就学の利便性を整え、入学者増に繋げ、特に建築学科夜間部においては7名の入学者があり、昨年度より約1.5倍になりました。

主な行事

4月4日	入学式
4月11日	授業開始
6月12日	球技大会
7月18日 ～8月25日	夏季休暇
9月10日 ～14日	前期末試験
10月1日	後期授業開始
12月22日 ～1月9日	冬期休暇
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	28	80	68
	建築学科(夜間部)	20	11	40	20
	福祉住環境デザイン学科 (募集停止)		—	—	—
	計	60	39	120	88
商業実務 専門課程	映像情報学科 (募集停止)		—	—	—
	計	(募集停止)	0	0	0
文化・教 養専門課 程	動物看護学科 3年制	30	13	90	41
	〃 2年制	20	27	40	46
	トリミング学科	40	35	80	77
	ドッグトレーニング学科	40	38	80	85
	アクアリウム学科	40	38	80	72
	計	170	151	370	321
文化・教 養一般課 程	トリミング学科 (募集停止)		—	—	—
	ドッグトレーニング学科 (募集停止)		—	—	—
	アクアリウム学科 (募集停止)		—	—	—
	計	(募集停止)	—	—	—
合計		230	190	490	409
専攻科 研究科	建築学科専攻科	10	10	10	10
	動物系総合学科研究科	10	20	10	20

(単位：人)

■ 卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	218	180	167	93%	23	29	1	2

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山市役所、(株)大本組、(株)荒木組、トヨタホーム岡山(株)、(株)あい設計岡山支社、田中犬猫病院、ナイル動物病院、とくしま動物園、東宇和農業協同組合、ペットショップアミーゴ妹尾店(他3店舗)、(株)高知食糧ペットステップ、しまね海洋館アクアス、(株)エーピーエヌ、徳島魚市場(株)、その他123事業所
-------	--

■ 教職員数

(平成25年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	12	13	12

(単位：人)

財務関係

■ 消費収支

(単位：千円)

科目	年度 25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	357,320	382,492
補助金収入	181	318
その他収入	6,729	4,829
帰属収入合計	364,230	387,640
基本金組入額合計	△ 4,307	△ 16,729
消費収入の部合計	359,923	370,911
人件費	221,201	221,914
教育研究経費	74,007	79,736
管理経費	29,984	29,818
その他支出	1,303	1,607
消費支出の部合計	326,495	333,076

■ 施設設備整備

(単位：千円)

事業名	金額
3校舎2階電気設備一式	595
実習棟電気設備一式	382
1学舎2階講義室エアコン設備一式	1,600
小動物用マットヒーター1台	70
生物実習顕微鏡5台	700
大型クーラー1台	720
1校舎2階第2実習室フロタ1台	300
3校舎2階パーテーション一式	372

平成 25 年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みました。また同時に、少子高齢社会を迎えた今日において、そのニーズに

的確に応えられる人材の養成に取り組みました。

2. 研究面については、教員の研究活動を積極的にサポートし、教員個々のスキルアップを図り、学生教育の充実に寄与しました。

3. 平成26年度に向けて、教育活動、研究活動並びに地域貢献の更なる充実に向けた改善・改革を推し進めました。

4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学の充実

■リメディアル教育の実施

新入生の学力を把握するために授業開始前に基礎学力試験を行い、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力を確認し、個々の学力に応じた学習計画に則ったリメディアル教育を実施しました。

■新入生宿泊研修の実施

4月に玉野スポーツセンターにおいて1泊2日の宿泊研修を実施しました。研修では、学科を越えた学生同士でグループを形成し、各種プログラムを行いました。学生同士が協力して取り組むことで連帯感が生まれ協調性が養われました。また、教育学の専門家を招いて行った研修会では、専門学校での学習習慣に関する研修を行いました。これにより、卒業年次に受験する国家試験までの学習プロセスが明確となり、継続学習の動機づけとなることが期待できます。

■国際交流・海外研修の実施

アメリカ、ブラジルの研修団を受入れ、学生主体による交流を行いました。英語による学科紹介やレクリエーションを通して国際交流を行いました。



■教育・進路懇談会の実施

学校と家庭を結ぶ架け橋として「教育・進路懇談会」を実施しました。学生の学校あるいは家庭での現状について話し合い、学校、保護者と連携した適切な指導に役立てることができました。

■研究活動の推進

医療・保健・福祉のスペシャリストを養成する学校としての主たる目的は教育活動であることは言うまでもありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要です。研究を推進するにあたり、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えるよう努めました。また、臨床研究を行う際には、必要に応じて倫理委員会を開催し、研究計画が倫理的に問題ないことを確認した上で、研究活動を許可する体制を構築しました。

■非常勤講師連絡会議の実施

本校では、高い専門性を有する講義を外部の専門家を招へいして行います。そのため、新たなカリキュラムや講師陣の陣容が決定する3月に連絡会議を開催し、関連科目の講義内容のすり合わせや、より充実した講義内容とするための意見交換を行いました。

平成 26 年度に向けて

■教育課程の改革の検討

社会環境の変化により、養成校に求められるニーズも変化します。本校が置かれている状況についてさまざまな角度から検証し、必要に応じて改善、改革について検討しました。

■研究活動の推進

教員による研究活動を継続して推進します。研究活動を通じて、教員個々のスキルアップを図ることはもちろん、研究成果を学生教育へ反映させる、学生が行う研究活動へ刺激を与えるなど、研究活動がもたらす多様なプラス要因を積極的に取り入れ、教

育活動の改善、改革に活かしました。今後も継続して行います。

■地域貢献の推進

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や実習を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくてはならない存在となるべく貢献を行いました。今後も継続して行います。

キャリア支援

■保健看護学科

就職担当教員による県内全域の主たる病院施設等への訪問、及び既卒者による各自の就職先の紹介、卒業前と就職後の各自の意識の違いなどについての意見交換会を開催しました。

■介護福祉学科

就職担当教員による県内施設への求人状況の問い合わせを行いました。

■理学療法学科・作業療法学科

就職担当教員による県内外の本校実習施設及び病院施設等への問い合わせを行いました。

産官学連携

■玉野市内中学校、高等学校との連携

玉野市内の中学校、高等学校と連携し、出張講義あるいは高校生の実習体験の実施を行い、医療・保健・福祉の職業体験により、職業選択の一助となるよう積極的に協力しました。

■公開講座の実施

例年通り、今年も3回の公開講座を実施しました。

玉野市民等の熱意に対して医療・保健・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。

また、玉野生涯学習センターおよび公民館での出張講座等も積極的に行いました。

■玉野市内の行事への参加

玉野市で開催される「たまの・港フェスティバル（5月）」「かっからか祭り（8月）」等の行事に学生および教職員が積極的に参加しました。

学校祭「優勇祭」は台風のため残念ながら中止となりました。1月に開催した「鏡開き」では地元の保育園児や市民団体等多くの市民に楽しんでもらえました。

■加計学園の設置校としての連携

加計学園が推進する地域を越えた連携協力活動に積極的に参加し、地域を越えた社会貢献を行いました。

学生募集

■多様な入試制度の実施

平成24年度に引き続き、年内、年明け問わず多様な方々が受験できるよう入試回数を増やし、地方会場を改編し、社会人入試の複数化など、多様な入試制度を実施しました。

■職業訓練生委託事業の実施（介護福祉学科）

雇用対策の一環として平成24年度に引き続き岡山県が実施する職業訓練事業（介護福祉士養成）の受け入れ先となり、介護福祉学科へ訓練生を受け入れました。

■入学金減免制度実施（専願学生確保のため）

- ・指定校入試で合格した学生の入学金の一部を減免する制度を継続しました。
- ・玉野市内の高等学校出身者で、AO入試、特別入試で合格した学生への入学金の一部を減免する制度を継続しました。

■スクールバス運行の継続

スクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間を運行しています。平成24年度に引き続き、動く看板として運行を継続しました。



■JR宇野駅、茶屋町駅への看板設置

玉野市を訪れた方々へ玉野市内にある唯一の高等教育機関であることをアピールするためにおひざ元の宇野駅と宇野線に乗り換える拠点である茶屋町駅に看板を平成24年度に引き続き設置し、広く認知度向上に努めました。

■オープンキャンパスの充実

平成25年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を継続させ高校生に魅力あるイベントにします。また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し送迎のためのバスを運行しました。



■テレビCMの実施

本校の認知度を向上させ、一人でも多くの方に本校に足を運んでもらうために、オープンキャンパスの告知を、5月から8月の期間に集中的にテレビC

Mを放映しました。

人事関係

■適切な人材の確保、配置

養成校としての責務を果たすために適正にあった教職員を確保し、必要に応じて適切に配置しました。

また、教育効果を最大限に考慮し、実務のスペシャリストを講師として迎え入れ、充実した講義の実施に努めました。

主な行事

4月4日	入学宣誓式
4月5日	新入生基礎学力確認試験
4月中旬	新入生宿泊研修
5月下旬	たまの・港フェスティバル
5月26日	第1回オープンキャンパス
6月23日	第2回オープンキャンパス
6月28日	国際交流（外国人研修団受入）
7月1日～	AO入試エントリー開始
7月20日	第3回オープンキャンパス
8月3日	第4回オープンキャンパス
8月24日	第5回オープンキャンパス
9月7日	教育・進路懇談会
9月28日	第1回進路・入試相談会
10月12日	特別入試
10月26日	優勇祭（学校祭）
11月9日	推薦入試Ⅰ期
12月8日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅰ期他
12月14日	第2回進路・入試相談会
1月25日	一般入試Ⅰ期
2月27日	一般入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
3月1日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月12日	第6回オープンキャンパス
3月14日	実習指導者連絡会議
3月24日	一般入試Ⅲ期他

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	44	160	167
	理学療法学科	40	45	160	156
	作業療法学科	40	35	160	112
	計	120	124	480	435
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	15	80	41
	計	40	15	80	41
合 計		160	139	560	476

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	104	92	91	99%	0	24	14	31

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山大学病院、四国こどもおとなの医療センター、福山医療センター (株)創心會、鳥取大学医学部附属病院、津山中央病院	他
-------	--	---

■教職員数

(平成25年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	1	27	29	8

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入		499,577	472,895
補助金収入		27,602	25,906
その他収入		22,282	21,855
帰属収入合計		549,462	520,657
基本金組入額合計		△ 2,687	△ 3,872
消費収入の部合計		546,775	516,785
人件費		372,237	372,374
教育研究経費		140,646	177,835
管理経費		42,898	44,215
その他支出		126	0
消費支出の部合計		555,907	594,423